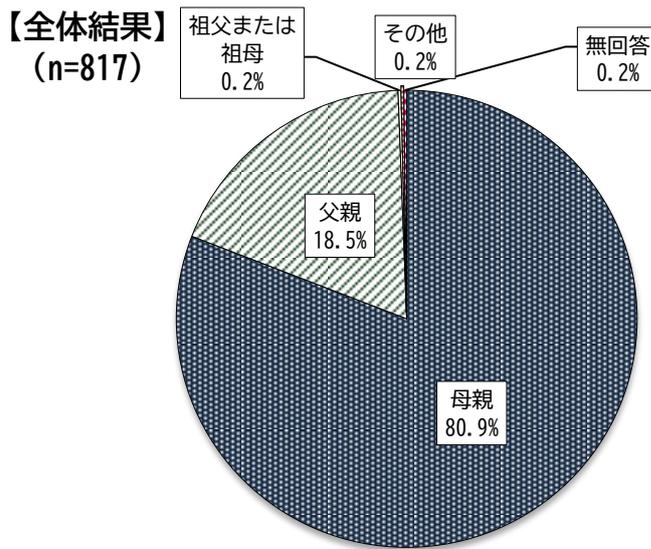


Ⅱ 保護者の生活状況編

1. 保護者回答者の基本属性

①保護者と子どもの関係

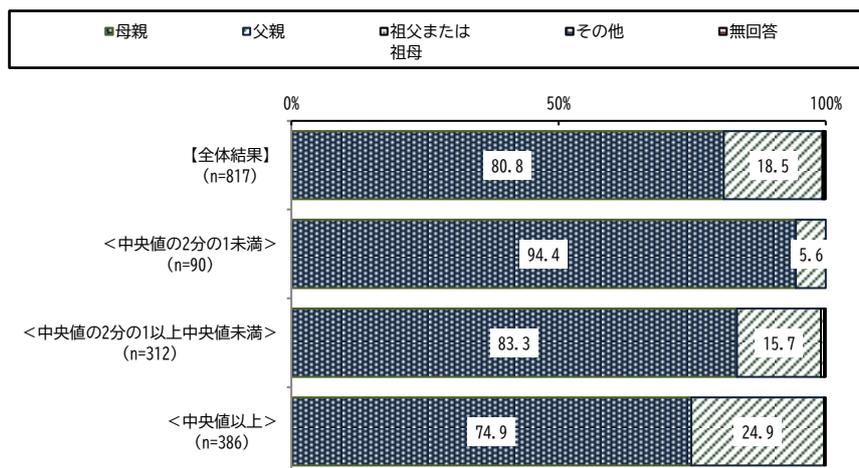
問 お子さんとあなたとの関係は、どれにあたりますか。お子さんからみた関係でお答えください。(SA)



【結果のサマリー】

「母親」からの回答が多数を占めています。

(等価世帯収入別にみた「保護者との関係」)



【特徴的な傾向や課題など】

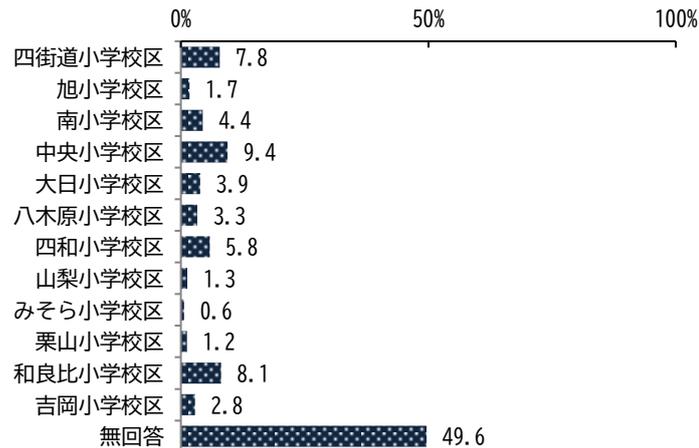
各世帯での役割分担にもよりますが、<等価世帯収入が低い層>（以降、<中央値の2分の1未満>のことをいう）では、特に「母親」からの回答が多くなっています。

②お住まいの学区

問 お子さんがお住まいの学区を教えてください。(SA)

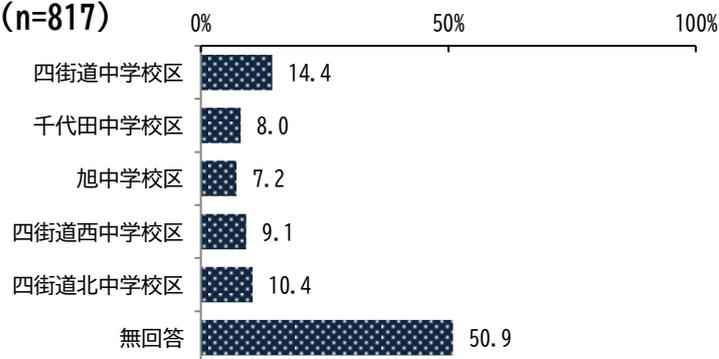
(小学生の保護者結果)

【全体結果】
(n=817)



(中学生の保護者結果)

【全体結果】
(n=817)



【結果のサマリー】

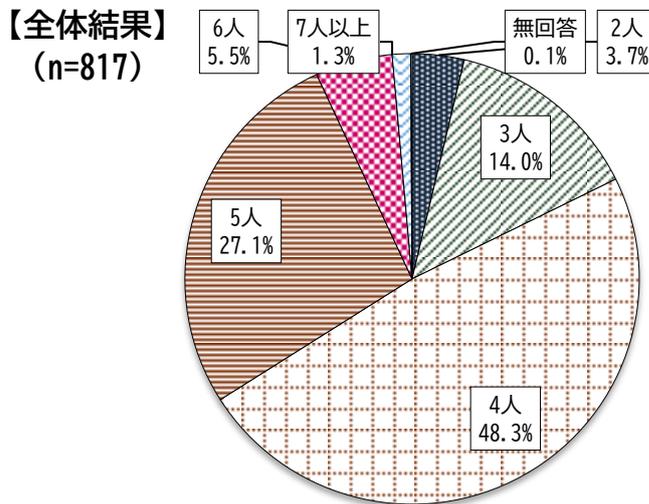
各調査対象別の分布は上図のとおりです。

【特徴的な傾向や課題など】

各調査対象とも、子どもの実人口構成比と大きな乖離はみられなく、市内全域より回答が寄せられていることが伺えます。

③家族人数

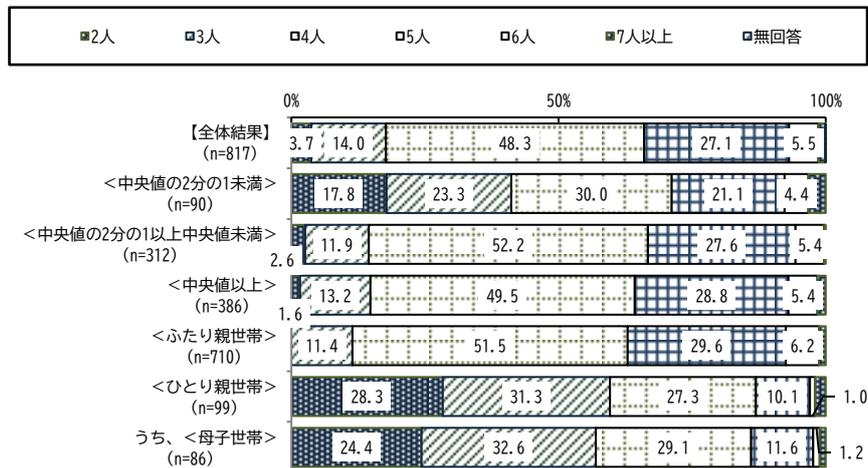
問 お子さんと生計を同一にしているご家族の人数（あなた、お子さんを含む）を教えてください。（SA）



【結果のサマリー】

全体では、「4人」が半数弱を占めています。

（等価世帯収入別・世帯構成別にみた「家族人数」）



【特徴的な傾向や課題など】

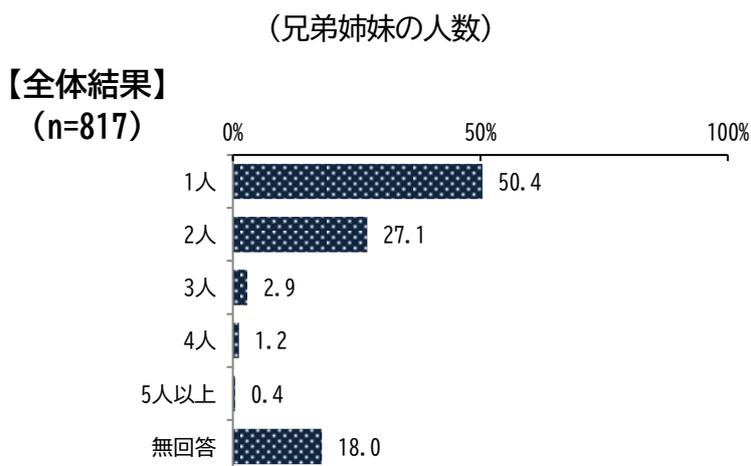
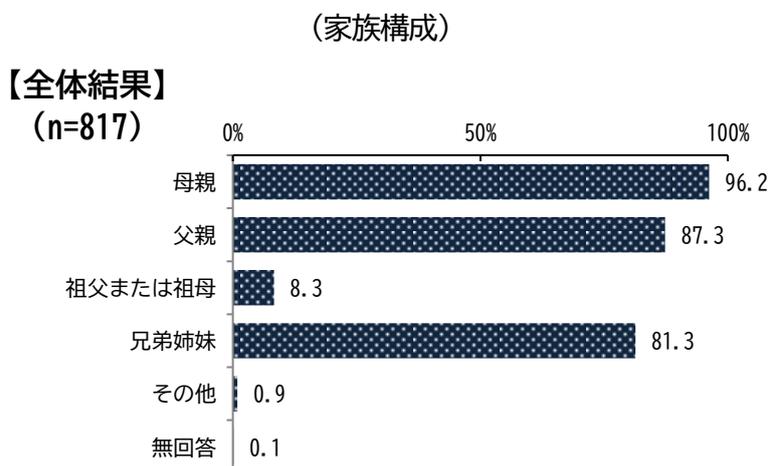
<等価世帯収入が低い層>では、『2～3人』が4割を超えています。

<ひとり親>世帯では、『2～3人』が6割程度を占めています。

④家族構成・兄弟姉妹の人数（参考掲載）

問 前問で回答した「ご家族」の構成を教えてください。お子さんからみた関係でお答えください。(SA)

問 兄弟姉妹の人数 ※お子さんを除いてお答えください。(NA)



【結果のサマリー】

家族構成と兄弟姉妹の人数分布は上図のとおりです。

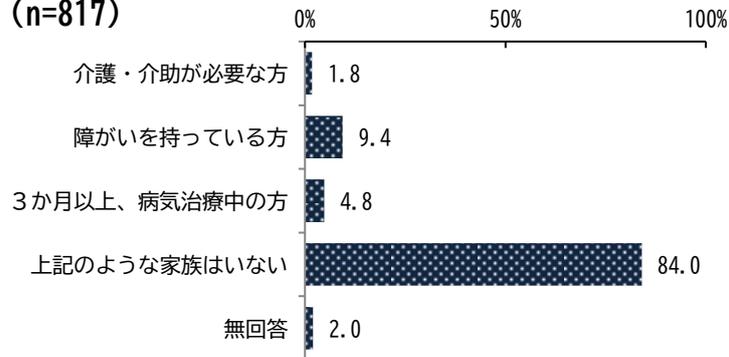
各調査対象とも、子どもとの関係ではなく、回答者自身からみた関係で回答したケースも含まれており、参考掲載にとどめます。

⑤ケア等を必要とする家族の有無

問 前問で回答した「ご家族」に、次のような方はいらっしゃいますか。(MA)

【全体結果】

(n=817)

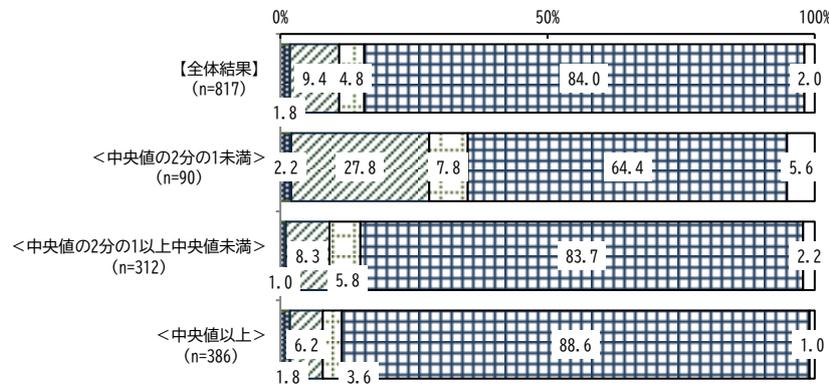


【結果のサマリー】

全体では、多数が「いない」としています。

(等価世帯収入別に見た「ケア等を必要とする家族の有無」)

■介護・介助が必要な方 □障がいを持っている方 □3か月以上、病気治療中の方 □上記のような家族はいない □無回答

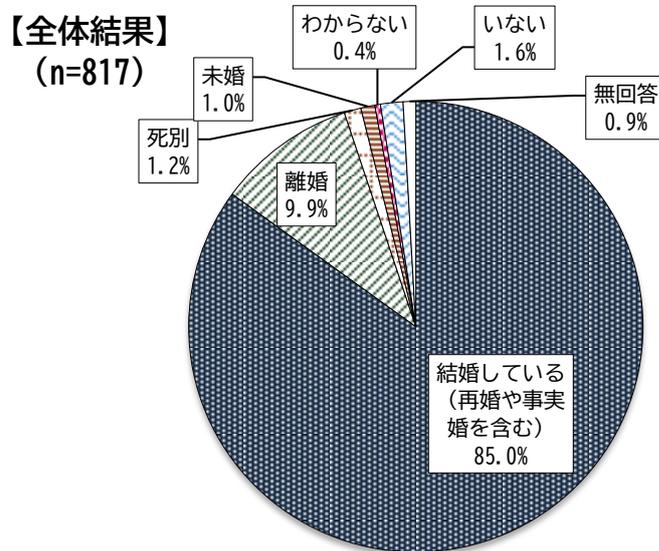


【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>では、「いない」とする比率が他層よりも低く、『何らかのケアを要する家族のいる』世帯が多いことがうかがえます。

⑥婚姻状況

問 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(SA)

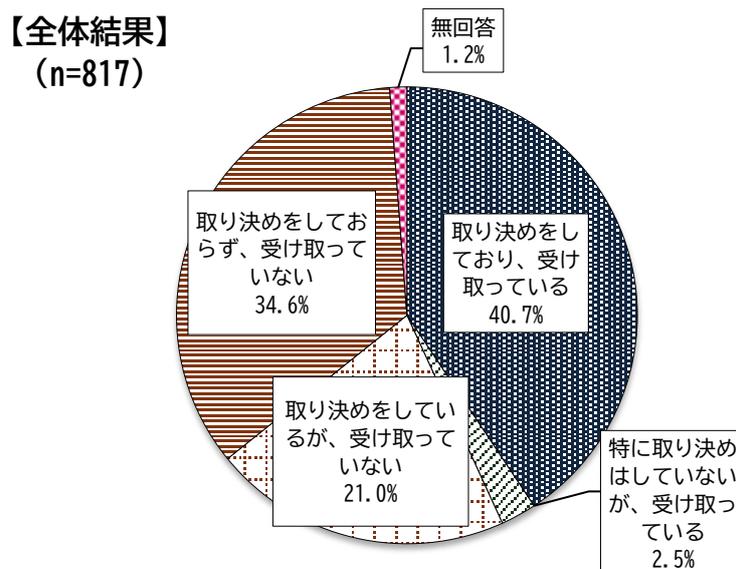


【結果のサマリー】

全体では、「離婚」は約1割です。

⑦養育費の状況

該当設問 前問で「2 離婚」と答えた方は、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また、養育費を現在受け取っていますか。(SA)



【結果のサマリー】

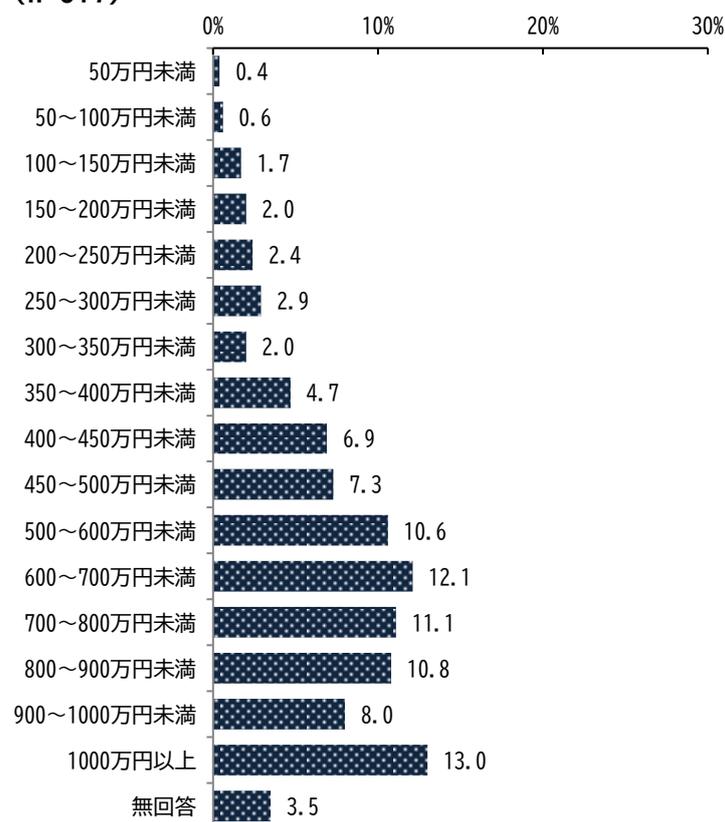
約3人に1人は「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答しています。

2. 経済的な状況や暮らしの状況について

①世帯全体の年間収入

問 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(SA)

【全体結果】 (n=817)



【結果のサマリー】

世帯全体の年間収入の分布は左図のとおりです。

「1000万円以上」が最も多く、「600～700万円未満」が続きます。

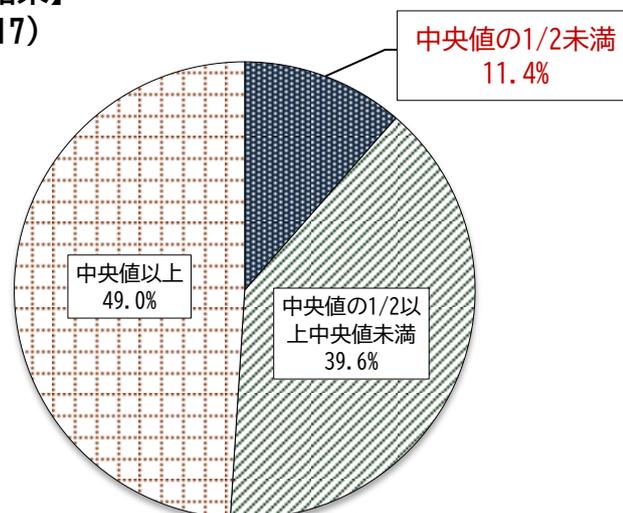
【特徴的な傾向や課題など】

収入が1000万円を超える世帯の比率が1割超となっている一方で、『300万円未満』に該当する比率も1割あります。

本報告書においては、世帯の年間収入の水準について、前出4頁の考え方で『等価世帯収入』による分類を行い、その結果のまとめを次頁に掲載しています。

②等価世帯収入

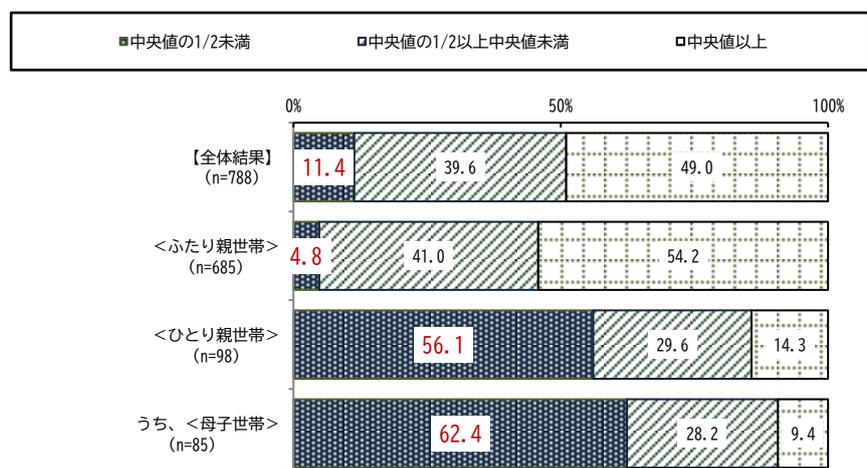
【全体結果】 (n=817)



【結果のサマリー】

分類の結果、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する世帯は11.4%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは39.6%でした。

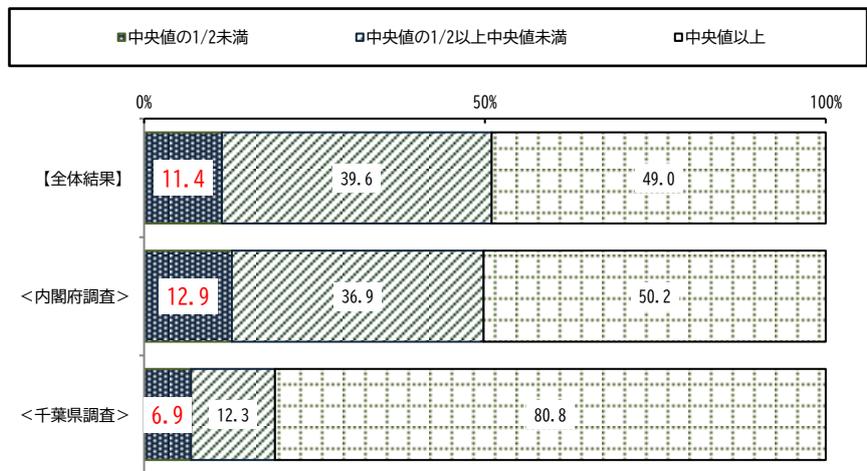
(世帯構成別に見た「等価世帯収入」)



【特徴的な傾向や課題など】

世帯構成別に等価世帯収入の水準をみると、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する比率は、「ひとり親世帯」では56.1%となっており、「ふたり親世帯」と比べてかなり高くなっています。「母子世帯」においては62.4%と更に比率は上昇します。

(参考結果：内閣府、千葉県調査結果との比較)



【結果のサマリー】

千葉県調査の結果については、

『困窮層』 = <中央値の2分の1未満>

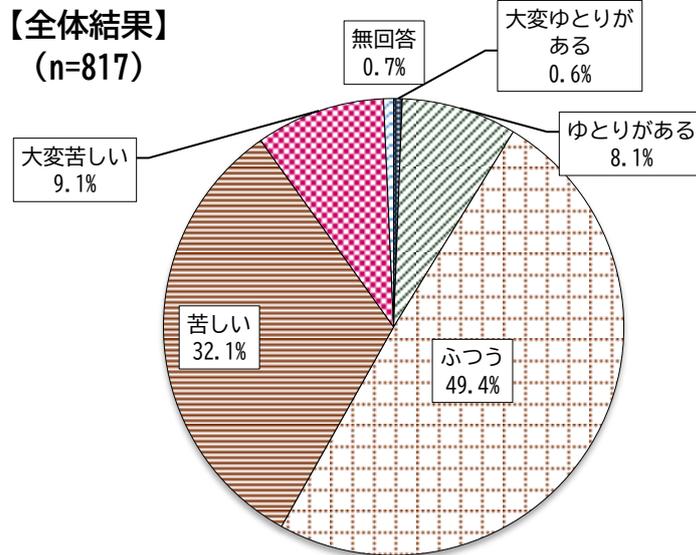
『周辺層』 = <中央値の2分の1以上中央値未満>

『一般層』 = <中央値以上>と読み換えての参考比較となります。

内閣府調査結果と比較すると、一般的に本市と同様の結果でした。

③経済的状況への感じ方

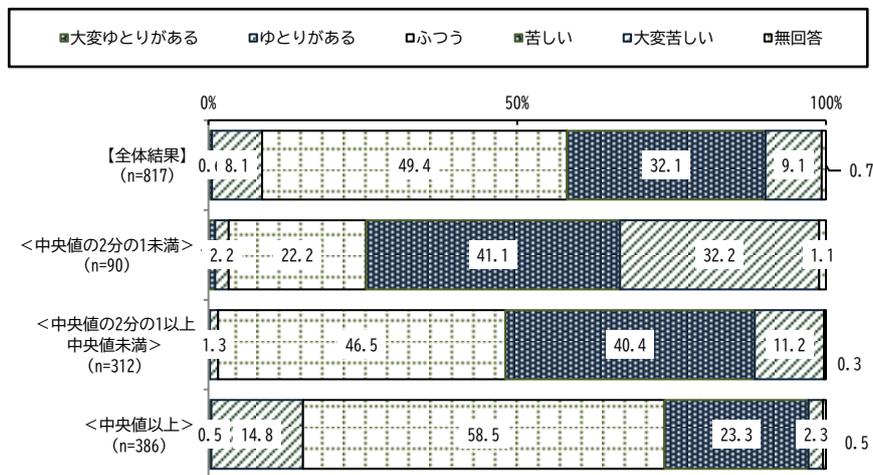
問 あなたは、現在の経済的な状況をどのように感じていますか。(SA)



【結果のサマリー】

『ゆとり』を感じている人は1割弱です。4割程度は『苦しい』と感じています。

(等価世帯収入別にみた「経済的状況への感じ方」)



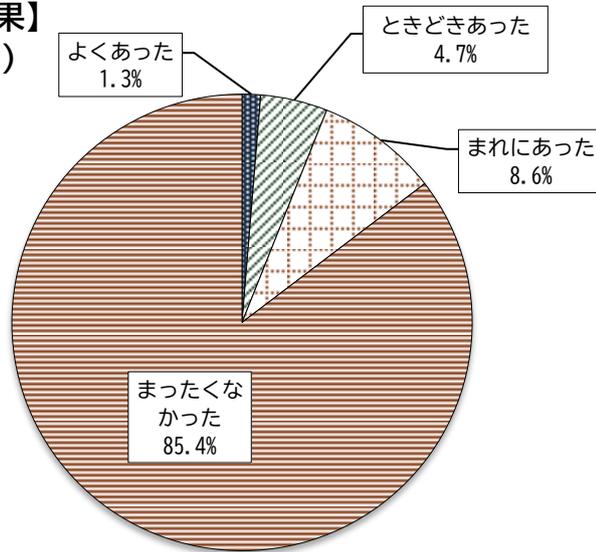
【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>の約3世帯に1世帯では「大変苦しい」と感じています。

④食料が買えなかった経験

問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。(SA)

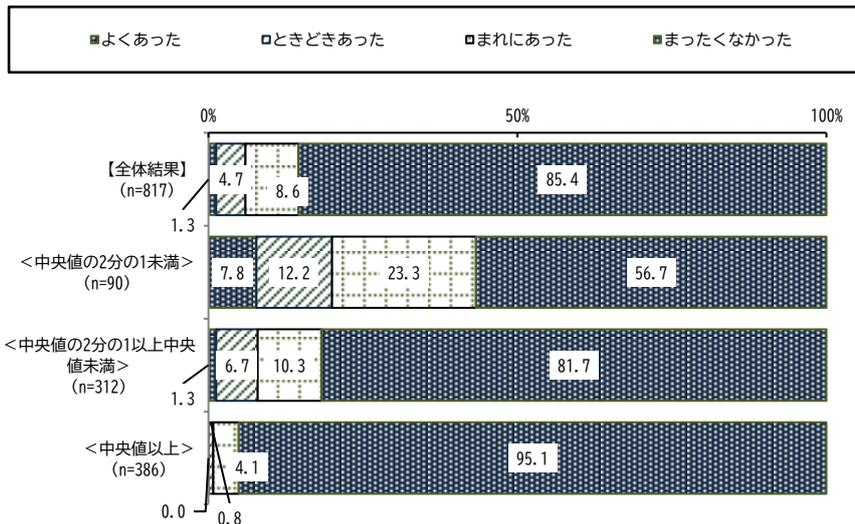
【全体結果】
(n=817)



【結果のサマリー】

1割以上の方が頻度の差はあれ、食料を買えなかった経験があります。

(等価世帯収入別に見た「食料が買えなかった経験」)



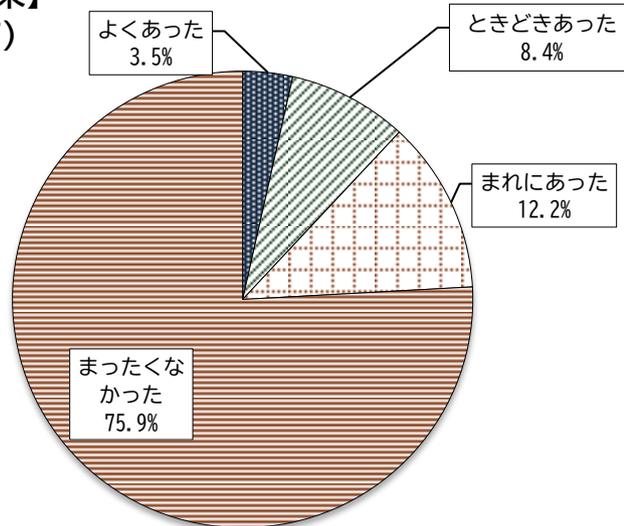
【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>の4割以上は食料を買えなかった経験があります。

⑤栄養バランスを考えた食事を用意できなかった経験

問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、夏休みや冬休みなどの期間のお子さんの昼食として、栄養バランスを考えた食事を用意できないことがありましたか。(SA)

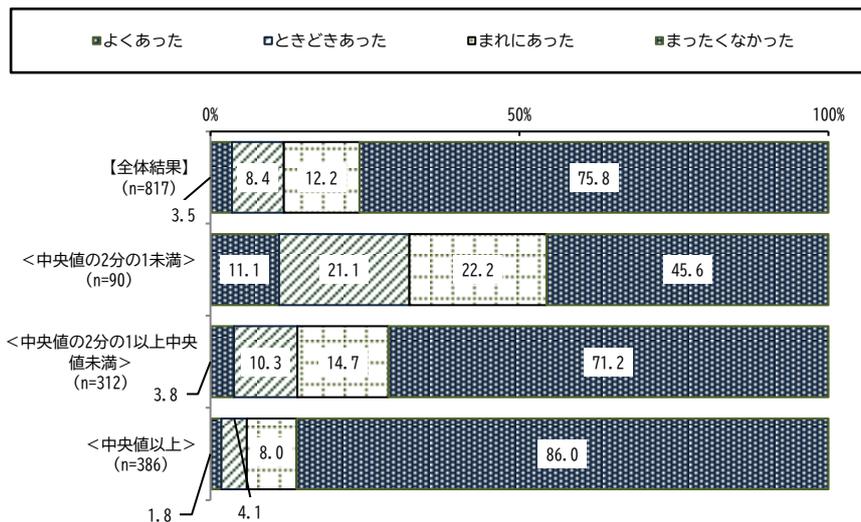
【全体結果】
(n=817)



【結果のサマリー】

2割以上の方が頻度の差はあれ、栄養バランスを考えた食事を用意できなかった経験があります。

(等価世帯収入別に見た「栄養バランスを考えた食事を用意できなかった経験」)



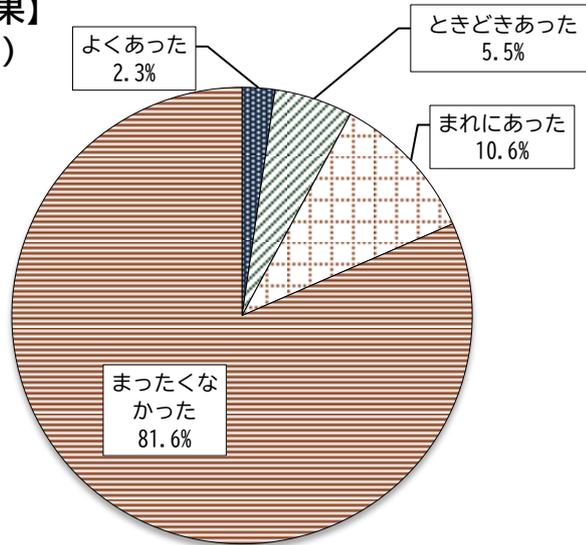
【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>の半数以上は、栄養バランスを考えた食事を用意できなかった経験者で、前項の『食料』よりも経験者が多くなっています。

⑥衣服が買えなかった経験

問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。(SA)

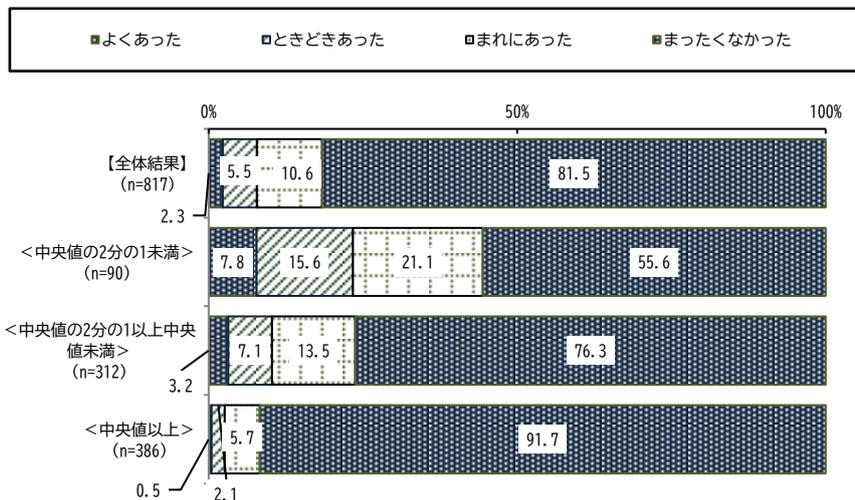
【全体結果】
(n=817)



【結果のサマリー】

2割弱の人が頻度の差はあれ、必要とする衣服を買えなかった経験があります。

(等価世帯収入別に見た「衣服が買えなかった経験」)



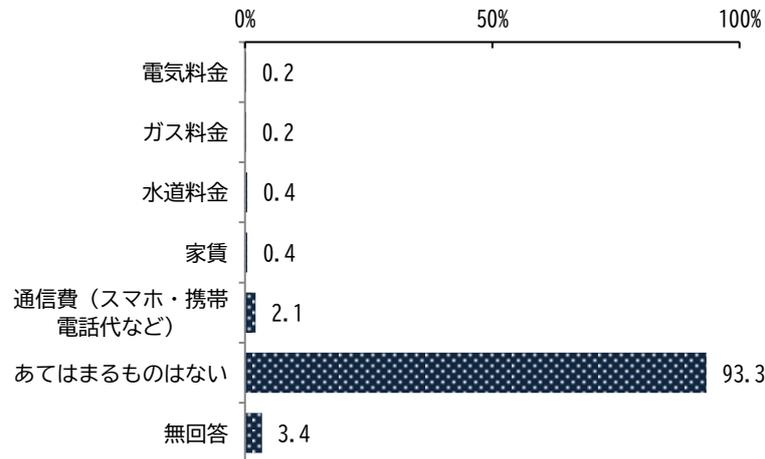
【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>の4割以上は、必要とする衣服を買えなかった経験者で、前出の『食料』と同程度の経験者がいます。

⑦料金未払いの経験

問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、以下の料金が未払いになったことがありますか。(SA)

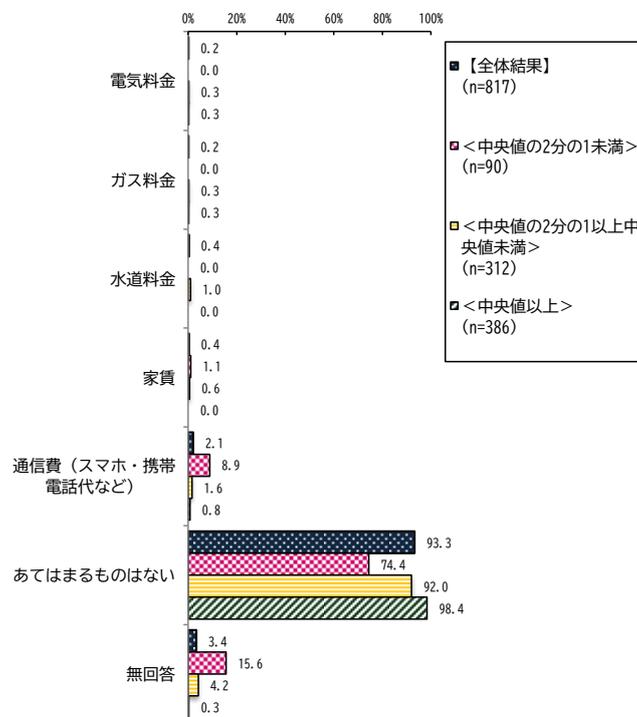
【全体結果】 (n=817)



【結果のサマリー】

大多数の人は未経験者ですが、ライフラインの料金未払い者も皆無ではありません。

(等価世帯収入別に見た「料金未払いの経験」)

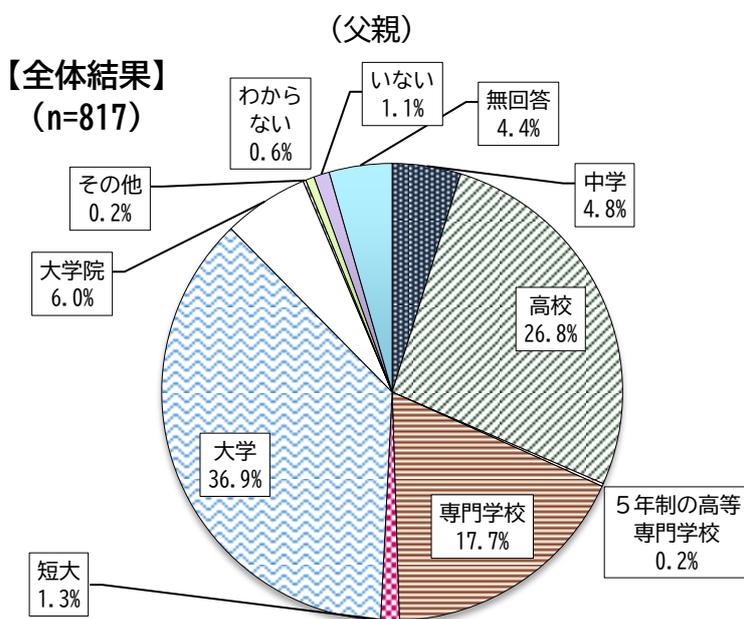
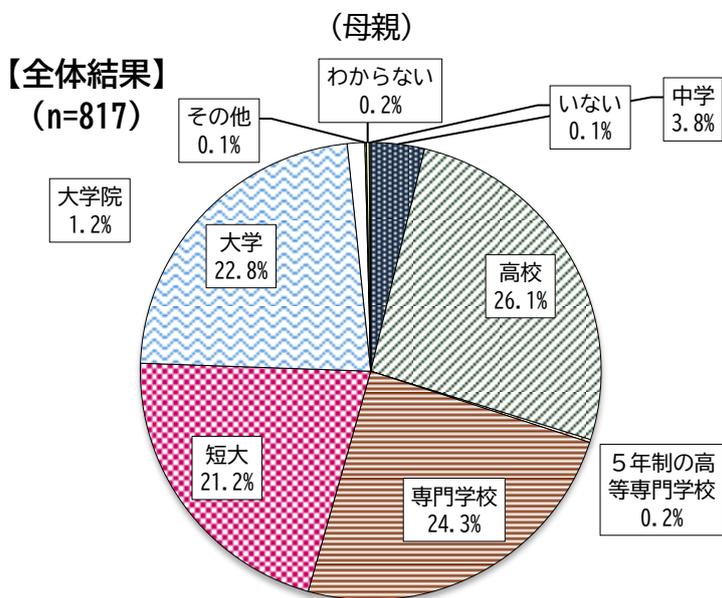


【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>においては、未経験者が約4人に3人と他の層に比べて少なくなっています。

3. 保護者が最後に卒業・修了した学校

問 お子さんの親が最後に卒業・修了した学校を教えてください。(SA)



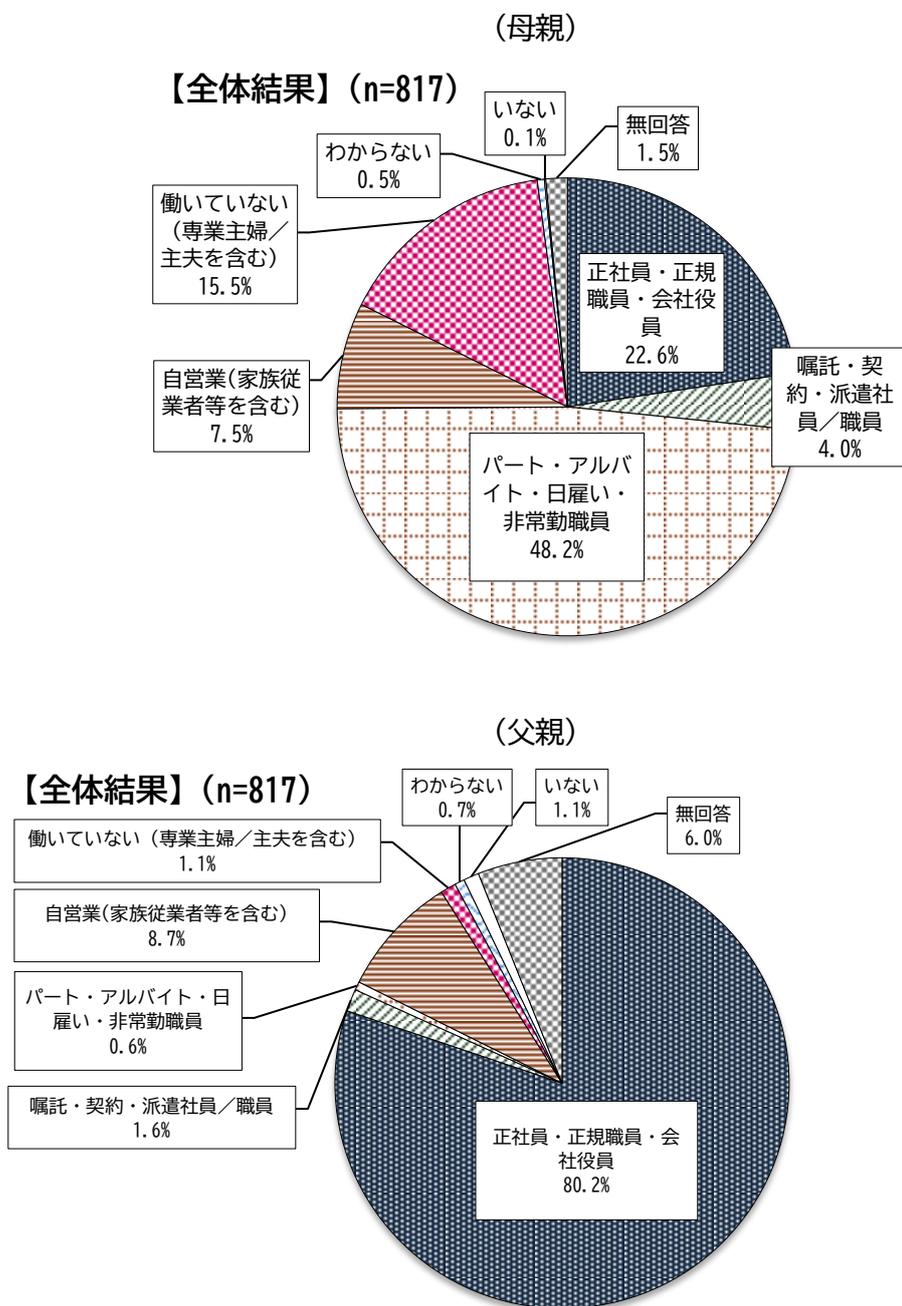
【結果のサマリー】

父親は「大学」の割合が母親と比べて高くなっています。

4. 就労の状況について

①親の就労状況

問 お子さんの親の就労状況を教えてください。(SA)



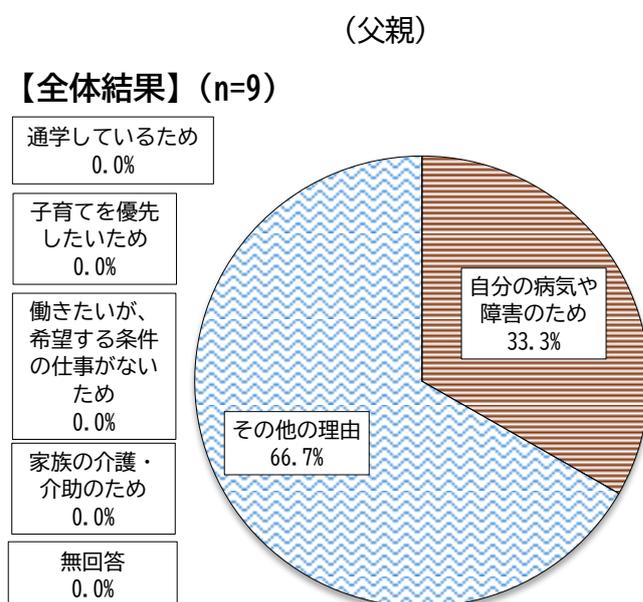
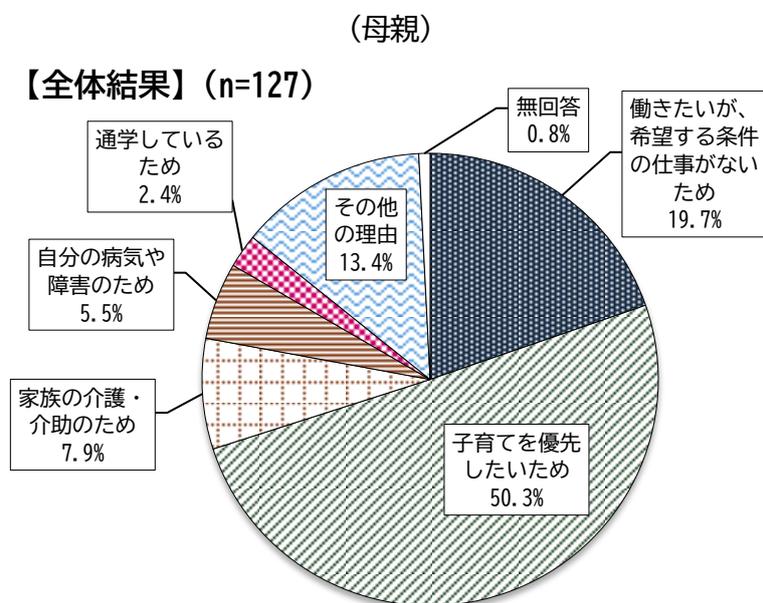
【結果のサマリー】

『母親』と『父親』の就労状況の分布は上図のとおりです。

『母親』において、「正社員・正規職員・会社役員」で働いている人は、4人に1人弱にとどまります。

②働いていない理由

問 前問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。
(SA)



【結果のサマリー】

『母親』と『父親』の働いていない理由の分布は上図のとおりです。

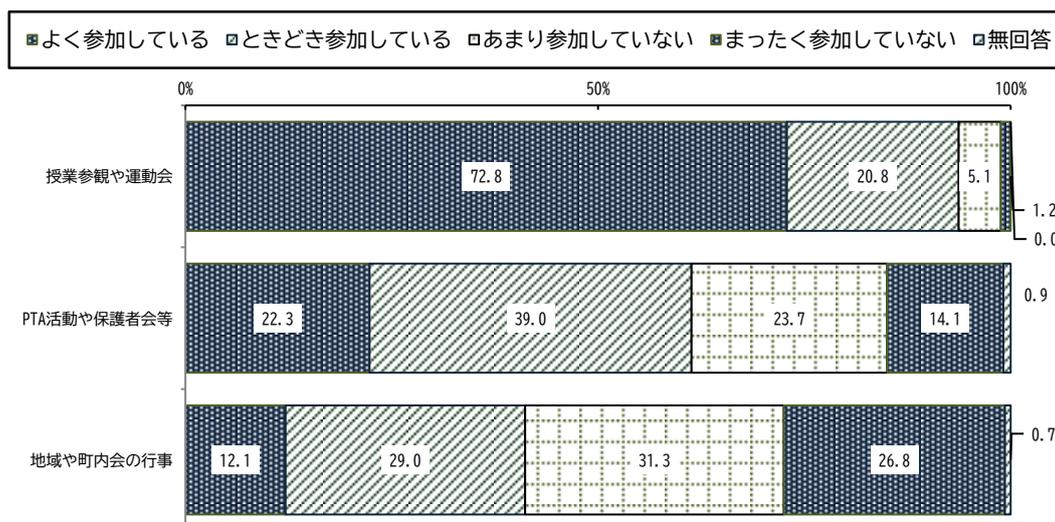
『父親』においては該当数が極めて少ないため参考掲載とします。

5. 学校行事や地域行事等へ参加状況

問 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(各 SA)

- a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加
- b) PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加
- c) 地域や町内会の行事への参加

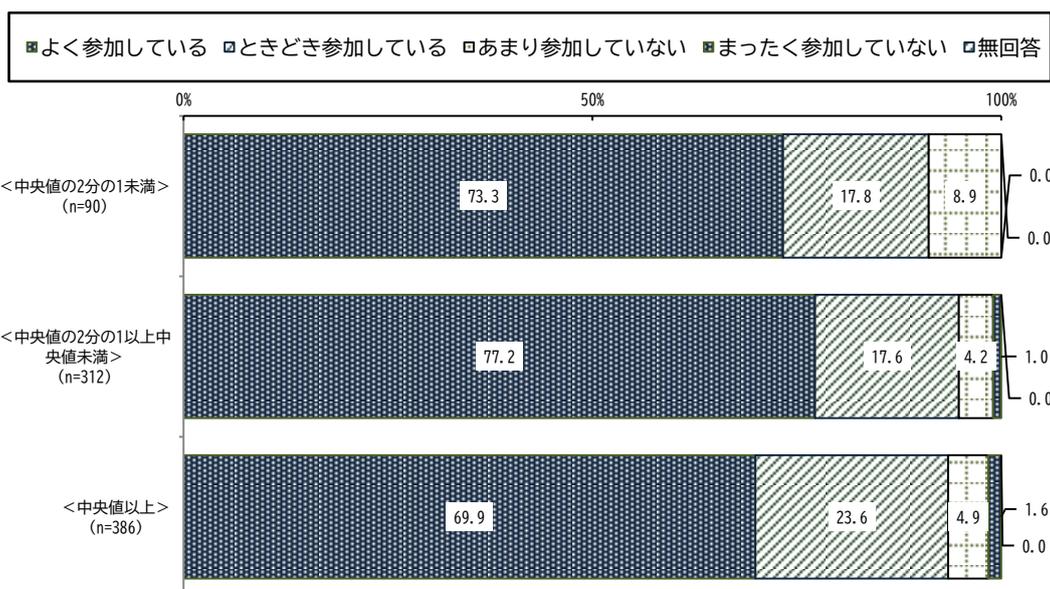
【全体結果】(n=817)



【結果のサマリー】

「授業参観や運動会などの学校行事」への高頻度での参加が特に多くなっています。

(等価世帯収入別にみた「授業参観や運動会などの学校行事」への参加状況)



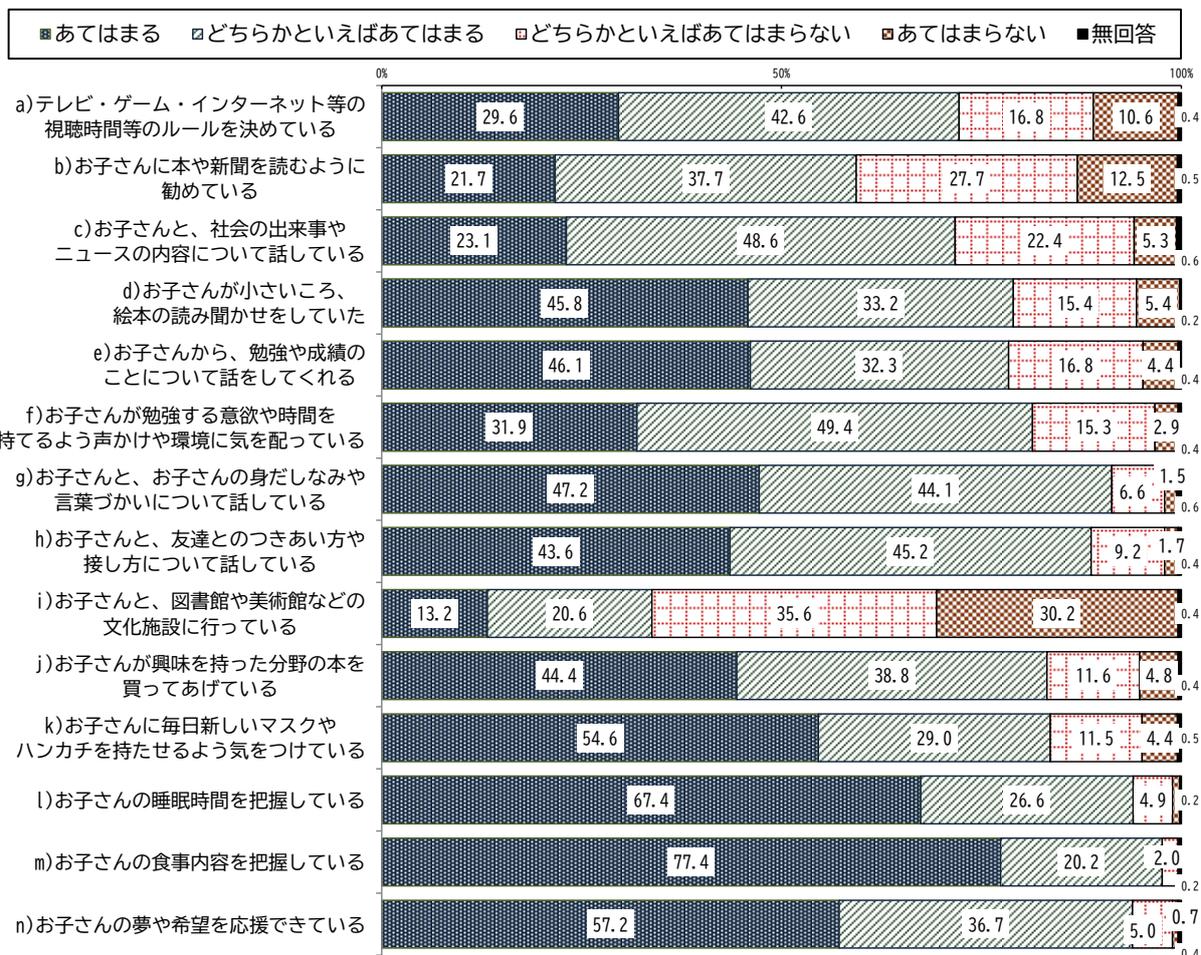
【特徴的な傾向や課題など】

<中央値以上>の世帯において「よく参加している」の割合が他の層よりもやや低くなっています。

6. 子どもとの関わり方について

問 あなたとお子さんの関わり方について、以下のようなことにどれくらいあてはまりますか。
(各 SA)

【全体結果】(n=817)



【結果のサマリー】

<テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている>については、7割以上が『あてはまる』と回答しています。

<お子さんと、社会の出来事やニュースの内容について話している>についても、7割以上が『あてはまる』と回答しています。

<お子さんに本や新聞を読むように勧めている>については、約6割が『あてはまる』と回答しています。

<お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる>については、8割弱が『あてはまる』と回答しています。



【特徴的な傾向や課題など】

<お子さんの睡眠時間を把握している>、<お子さんの食事内容を把握している>等については、高い割合で『あてはまる』と回答されており、保護者は子どもの日常生活への関与に重点を置いていることがわかります。

一方で、<お子さんと、図書館や美術館などの文化施設に行っている>については、3人に1人程度のみが『あてはまる』と回答しており、文化施設への関与は比較的低い傾向にあります。

文化施設への関与が低いことから、子どもの文化的な教養や興味を育む機会が不足している可能性があります。

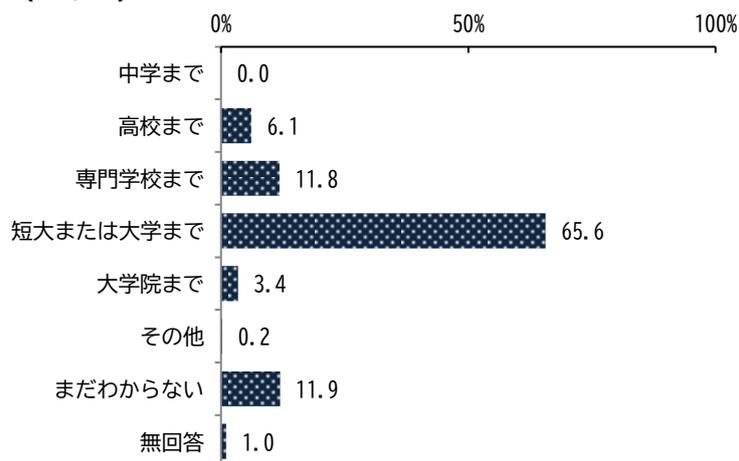
テレビやインターネットの使用に関するルールは設定されているものの、本や新聞を読むことを勧める割合がそれほど高くないことから、読書習慣の促進が課題となっている可能性があります。

7. 進学・進路について

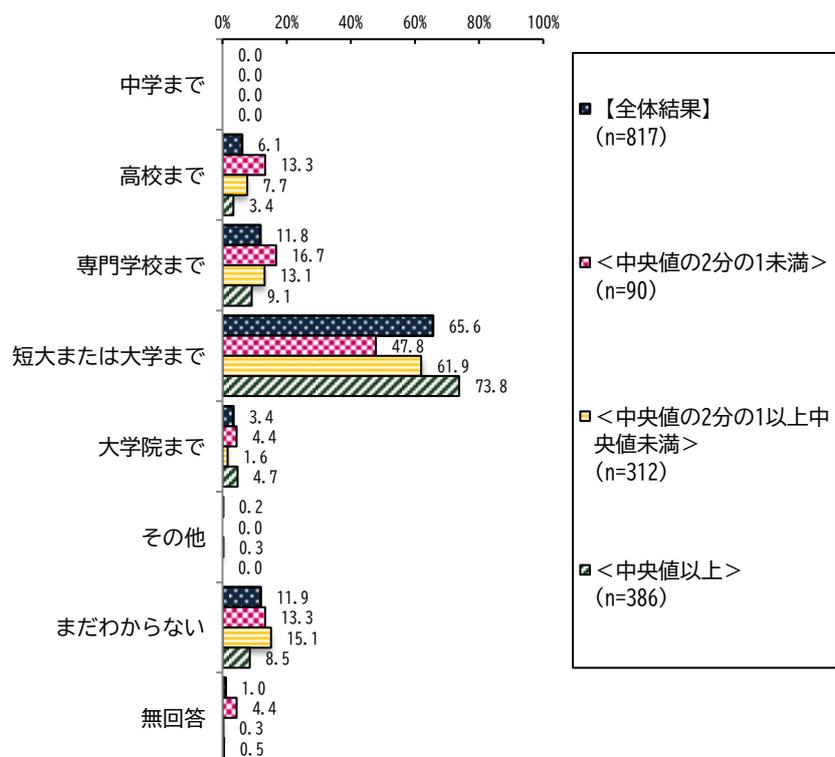
①保護者が希望する子どもの進路

問 a) 保護者の希望 お子さんは将来、どの段階まで進学すると思いますか。(SA)

【全体結果】 (n=817)



(等価世帯収入別に見た「保護者が希望する子どもの進路」)



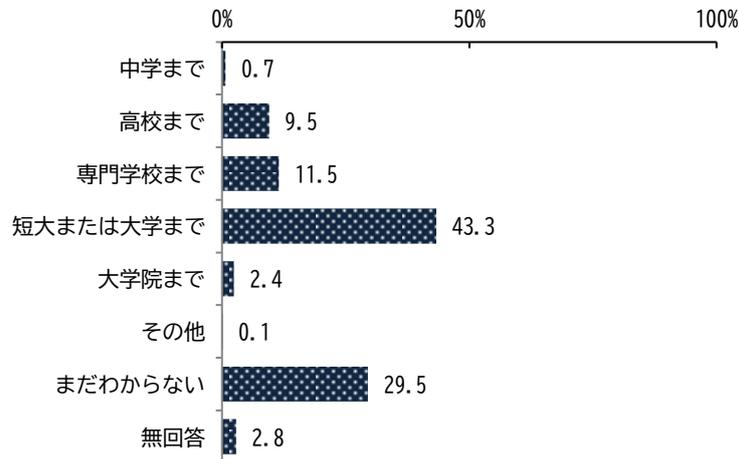
【結果のサマリー】

<等価世帯収入が低い層>においては、「短大または大学まで」の割合が他の層よりも低くなっています。

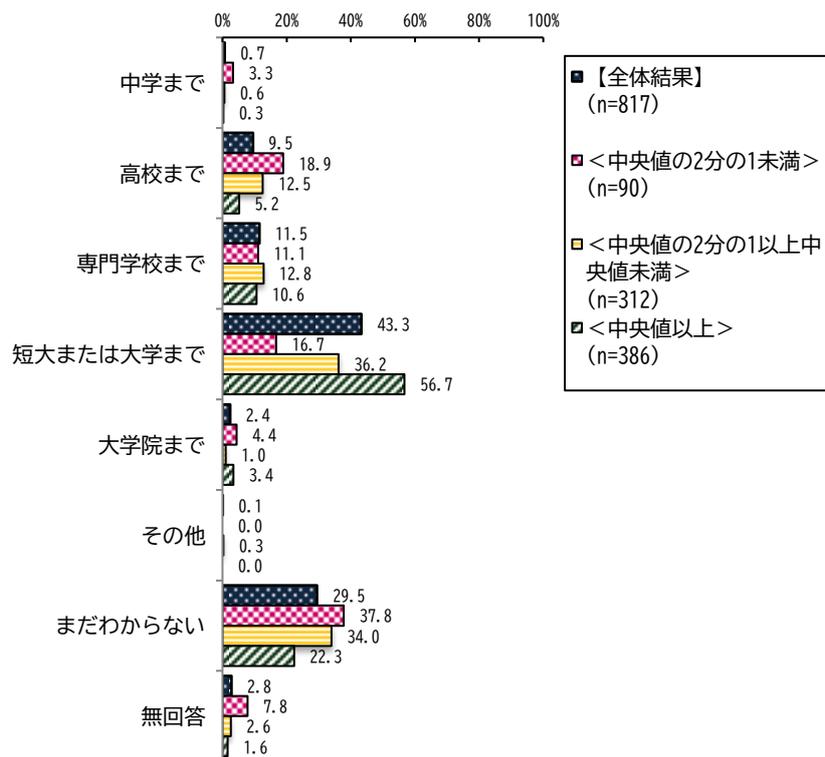
②現実的な子どもの進路

問 b) 現実的な進路 お子さんは将来、どの段階まで進学すると思いますか。(SA)

【全体結果】 (n=817)



(等価世帯収入別に見た「現実的な子どもの進路」)



【結果のサマリー】

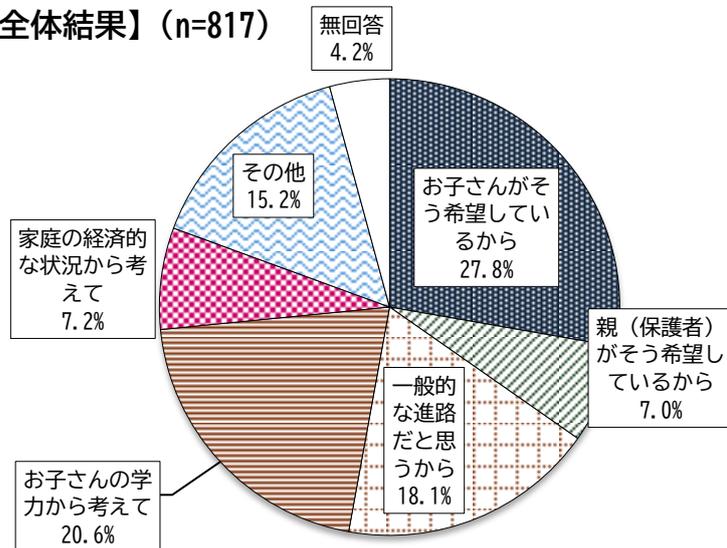
前項の希望と比べると、「短大または大学まで」の割合が低下し、「まだわからないが増加します。」

前項の希望同様に<等価世帯収入が低い層>においては、「短大または大学まで」の割合が他の層よりも低くなっています。

③現実的な進路の選択理由

問 「b)現実的な進路」で選んだ答えの一番の理由を教えてください。(SA)

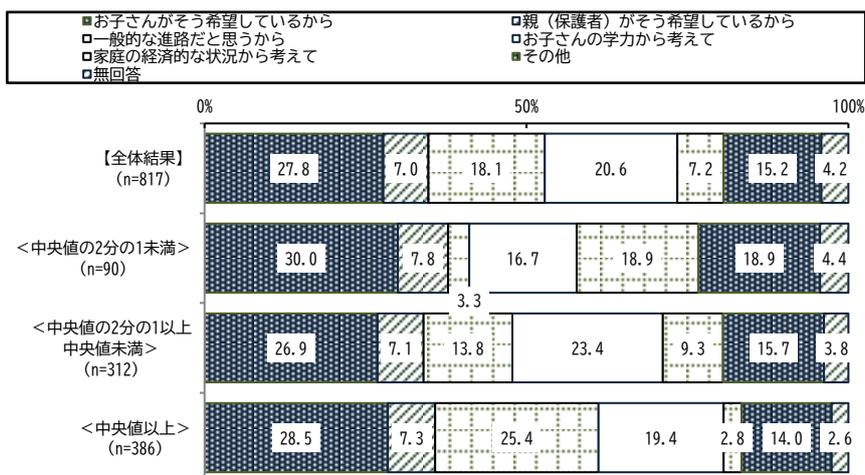
【全体結果】(n=817)



【結果のサマリー】

「家庭の経済的な状況から考えて」を選んだ割合は、全体で1割に満たない割合ですが、【等価世帯収入別】で見ると大きな差があります。<等価世帯収入が低い層>では2割弱がこの理由を選んでおり、<中央値以上>ではわずかです。<中央値の2分の1以上中央値未満>では1割弱と、<等価世帯収入が低い層>と<中央値以上>の中間に位置しています。家庭の経済状況が子どもの進学先選択に大きく影響していることを示しています。

(等価世帯収入別にみた「現実的な進路の選択理由」)





【特徴的な傾向や課題など】

「一般的な進路だと思うから」という理由を選んだ割合は、＜等価世帯収入が低い層＞で低く、困窮層の子どもたちが、一般的な進路よりも経済的な事情を重視していることを示唆しています。

家庭の経済状況が子どもの進学先選択に大きな影響を与えており、経済的に困窮している家庭の子どもたちは、希望する進路を選択できない可能性が高いことがわかりました。

経済的に困窮している家庭の子どもたちが自分の希望を実現するのが難しい状況にあることが示されており、これにより将来の展望が制限される可能性があります。

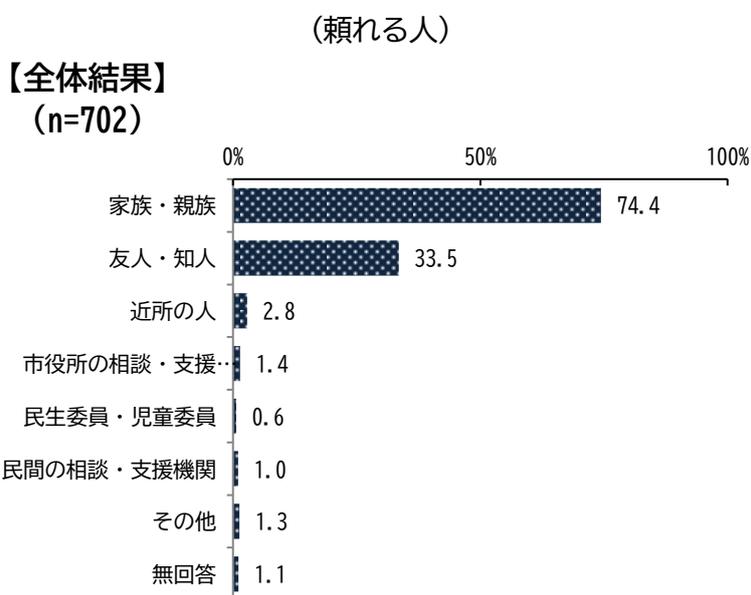
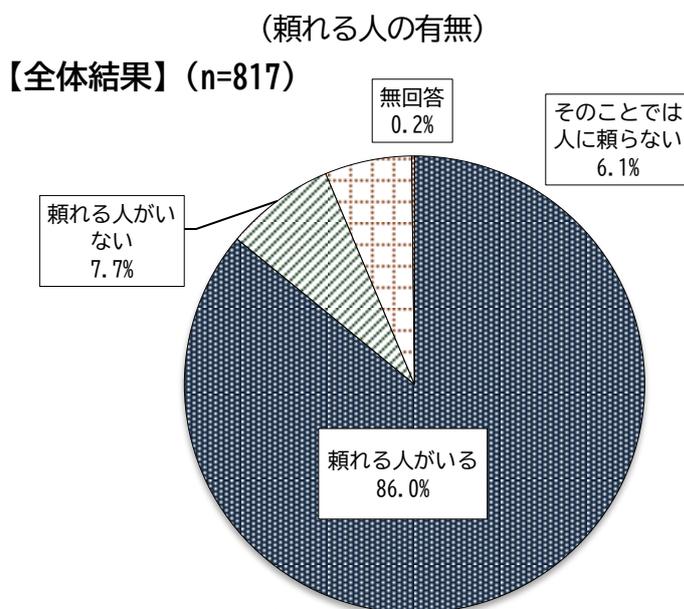
これらの結果から、経済的な困難が教育の機会に与える影響に対する支援や施策がより重要であることが伺えます。

8. 頼れる人について

①子育てに関する相談で頼れる人

問 あなたは『子育てに関する相談』で頼れる人はいますか。(SA)

問 『子育てに関する相談』で頼れる人は誰ですか。(MA)

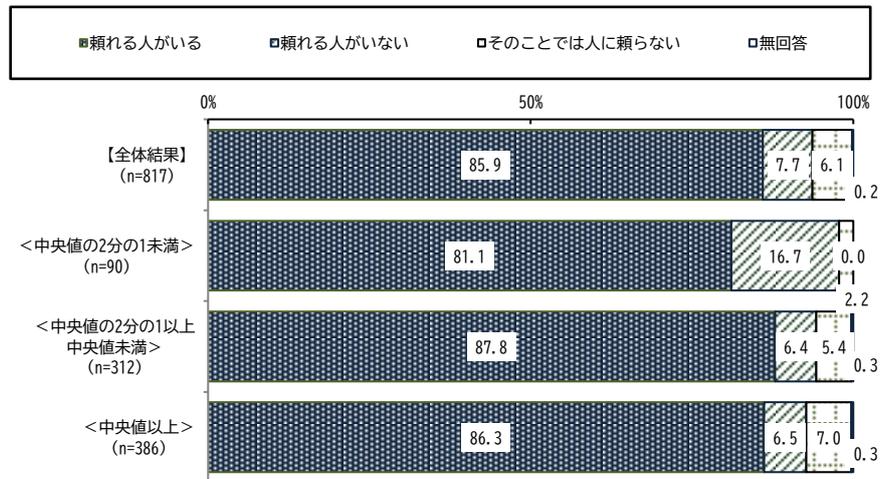


【結果のサマリー】

「頼れる人がいない」とする人も1割弱います。

『頼れる人』の大多数は「家族・親族」です。

(等価世帯収入別に見た『子育てに関する相談』で頼れる人の有無)



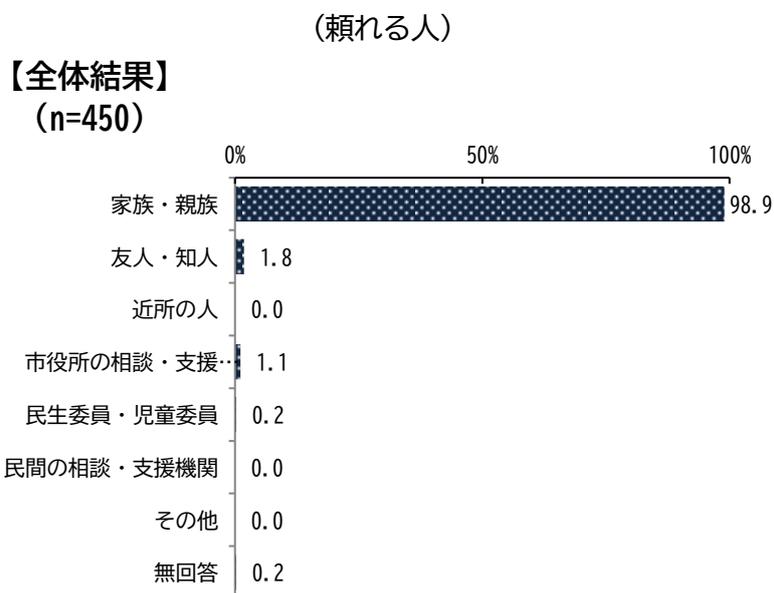
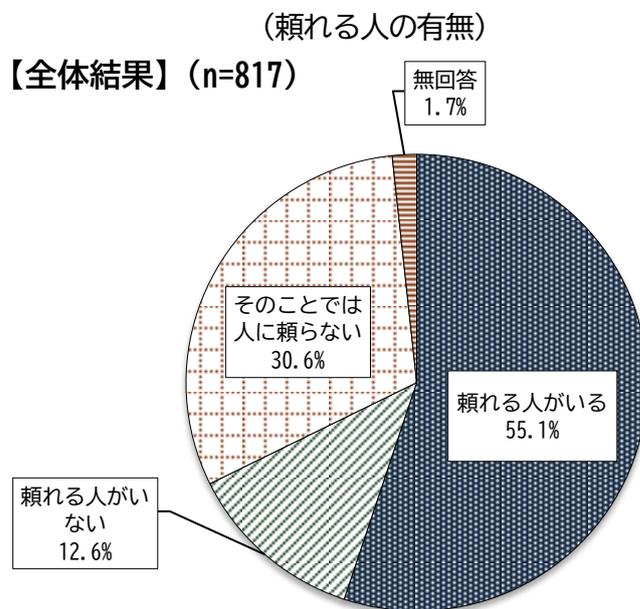
【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>において「頼れる人がいない」が他の層よりも高くなっています。

②困ったときのお金の援助で頼れる人

問 あなたは『困ったときのお金の援助』で頼れる人はいいますか。(SA)

問 『困ったときのお金の援助』で頼れる人は誰ですか。(MA)

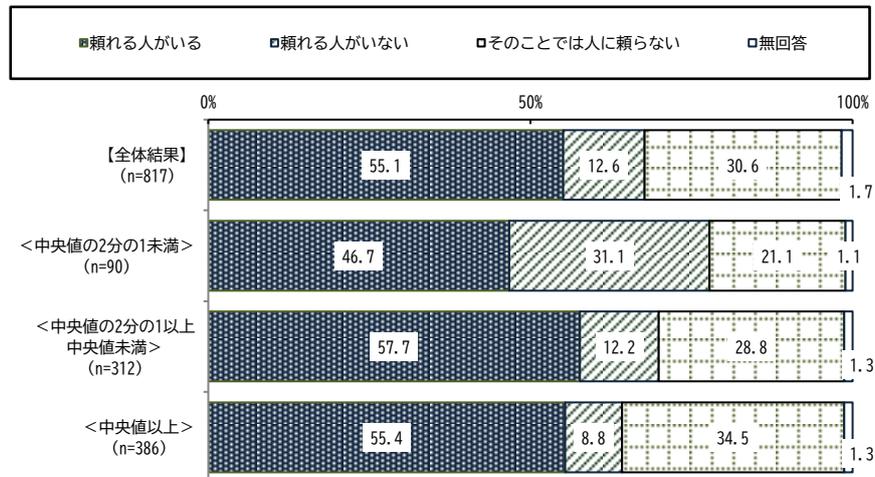


【結果のサマリー】

前項の『子育てに関する相談』よりも「頼れる人がいない」、「そのことでは人に頼らない」とする人が増加します。

『頼れる人』の大多数は「家族・親族」です。

(等価世帯収入別に見た『困ったときのお金の援助』で頼れる人の有無)



【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>において「頼れる人がいない」が他の層よりも高くなっています。

9. 保護者の心理的な状態や幸福度について

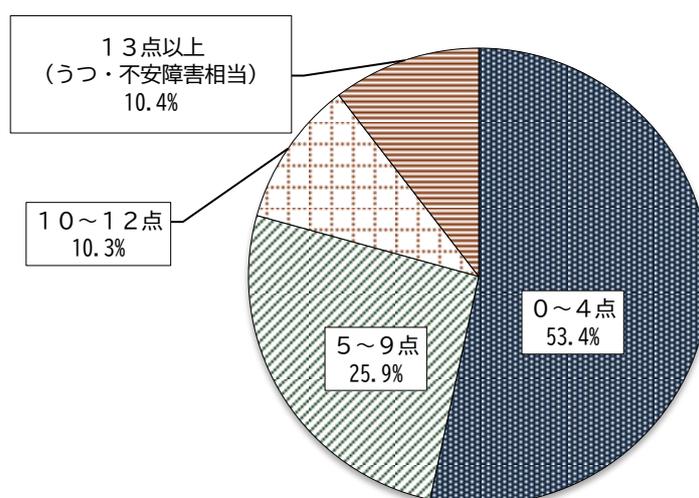
①心理的状态の判定

問 以下の a)~f)の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。(各 SA)

- a) 神経過敏に感じた
- b) 絶望的だと感じた
- c) そわそわ、落ち着かなく感じた
- d) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた
- e) 何をするのも面倒だと感じた
- f) 自分は価値のない人間だと感じた

- 選択肢：1 いつも（感じていた） <=4点>
2 たいてい（感じていた） <=3点>
3 ときどき（感じていた） <=2点>
4 少しだけ（感じていた） <=1点>
5 まったくない（感じなかった） <=0点>

【全体結果】(n=817)



保護者の心理的な状態に関して、調査では<K6※>と呼ばれる指標を把握するための6つの項目を設定しました。

この6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6のスコアを算出しています(0~24点)。

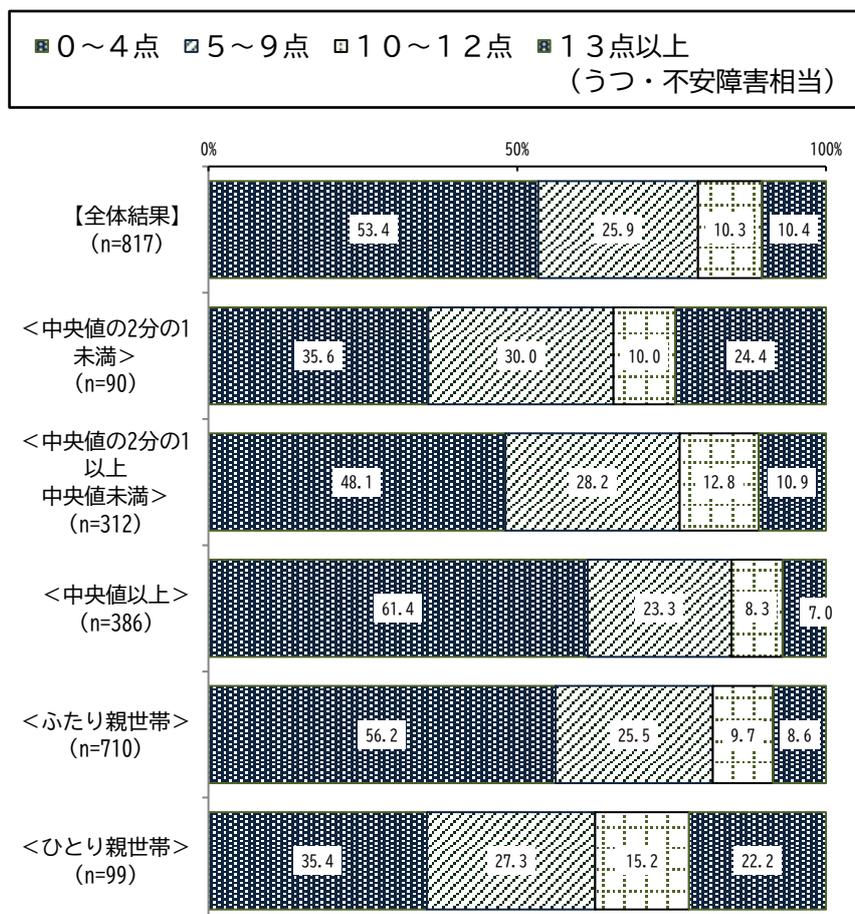
「13点以上」は<うつ・不安障害相当>とされます。

- ※ K6はうつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されています。採点方法は、ひとつの質問ごとに0点から4点(上記<点数>の配点)を振り、0点から24点で合計を計算しています。スコアが高くなるほど抑うつ状態が強いことを示します。

【結果のサマリー】

約1割が「うつ・不安障害相当」とされている「13点以上」です。

(等価世帯収入別に見た「心理状態の判定点数」)



【結果のサマリー】

全体では、約1割の保護者が「13点以上（うつ・不安障害相当）」と判定されていますが、<等価世帯収入が低い層>では、この割合が約4人に1人と非常に高く、生活困難が心理的な健康に大きく影響していることが示されています。

<中央値の2分の1以上中央値未満>では約1割、<中央値以上>では1割以下となっており、生活困難度が低くなるにつれて、うつ・不安障害相当の割合も低くなっています。

<ふたり親世帯>では、1割弱の保護者が「13点以上（うつ・不安障害相当）」と判定されています。

<ひとり親世帯>では、この割合が2割を超え、<ふたり親世帯に比べて>心理的な健康の問題が顕著になっています。

【特徴的な傾向や課題など】

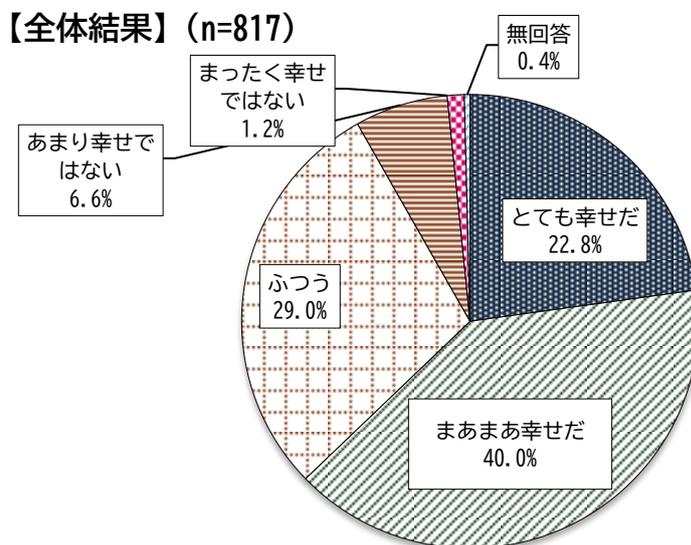
<等価世帯収入が低い層>では、心理的な健康問題の割合が高く、社会的なサポートが必要であることが示されています。

<ひとり親世帯>でも同様に、心理的な健康問題が顕著であり、特にこの世帯に対する支援が重要であると考えられます。

以上の結果から、<等価世帯収入が低い層>や<ひとり親世帯>の保護者に対して、心理的な健康をサポートするための支援を強化する必要があると言えます。

②幸福感

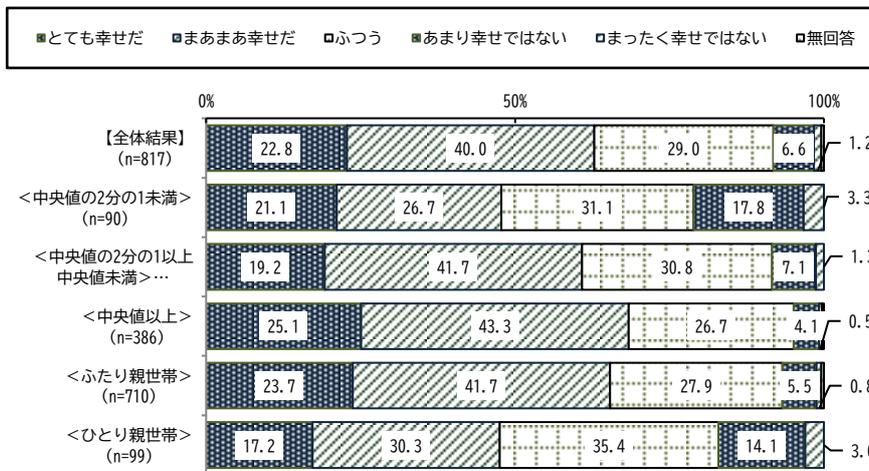
問 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい幸せだと感じていますか。(SA)



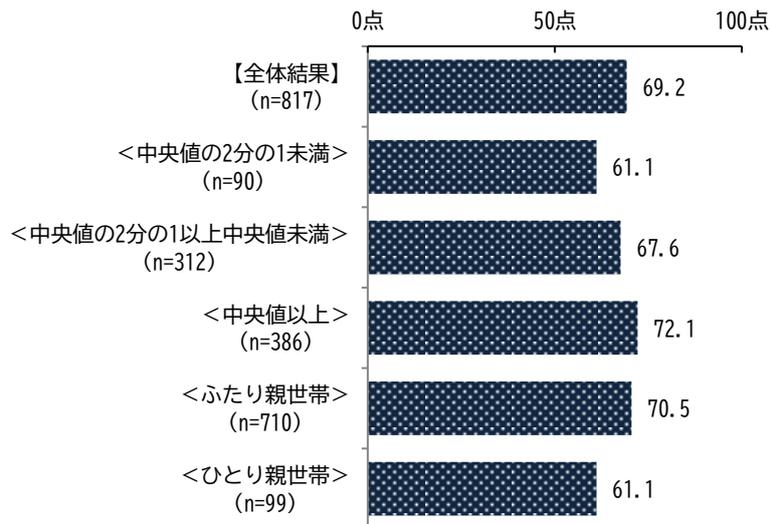
【結果のサマリー】

『幸せだ』と感じている人が6割以上を占めていますが、一方で『幸せではない』と感じている人も1割弱はいます。

(等価世帯収入別・世帯構成別にみた幸福感)



(等価世帯収入別・世帯構成別にみた幸福感の平均スコア)



【特徴的な傾向や課題など】

『幸せだ』とする人の割合は、<等価世帯収入が低い層>で、他の層よりも一段低くなっています。

また、上記の平均スコア図は、「とても幸せだ=100点」、「まあまあ幸せだ=75点」、「ふつう=50点」、「あまり幸せではない=25点」、「まったく幸せではない=0点」のスコアを与え、平均スコアを比較したものです。

<等価世帯収入が低い層>や<ひとり親世帯>での平均スコアが他の層よりも低くなっています。

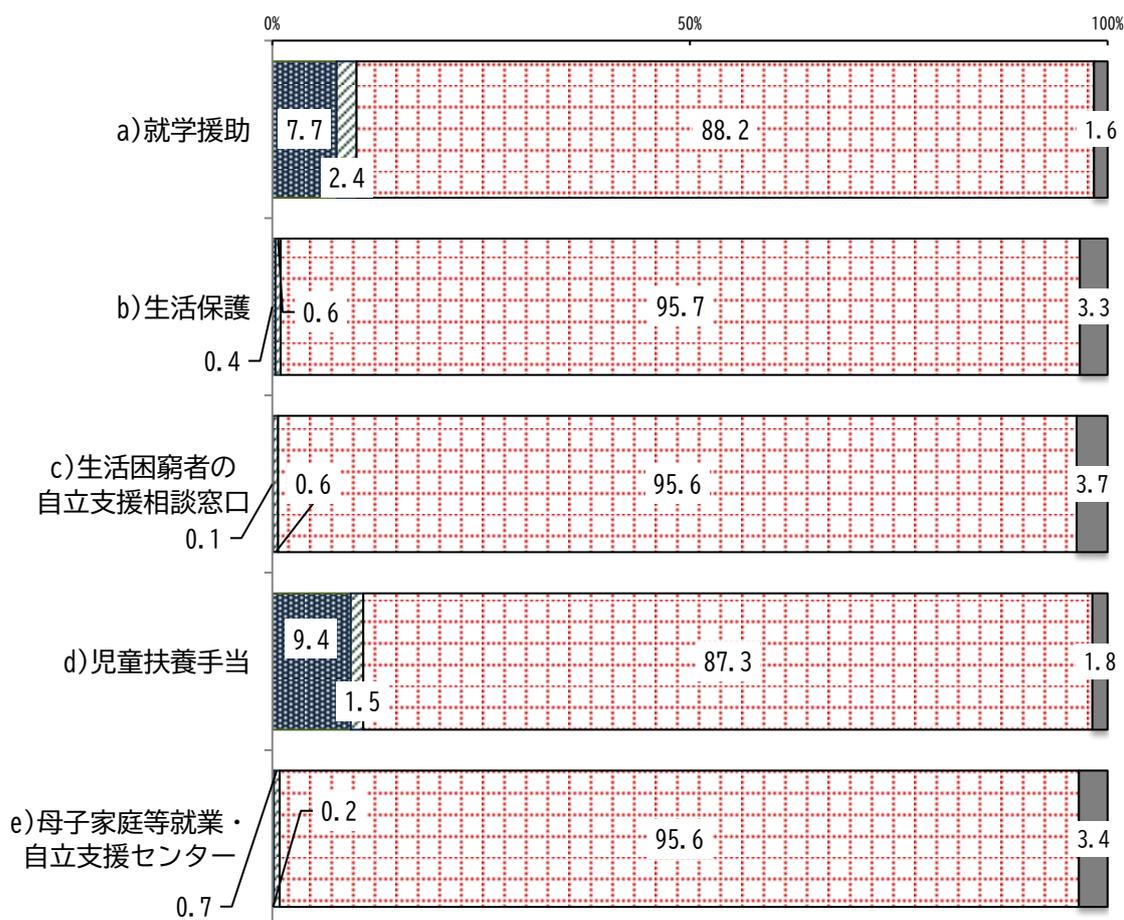
10. 支援制度等の利用について

①各種支援制度の利用状況

問 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(各 SA)

【全体結果】(n=817)

■現在利用している □以前利用したことがある □利用したことがない ■無回答



【結果のサマリー】

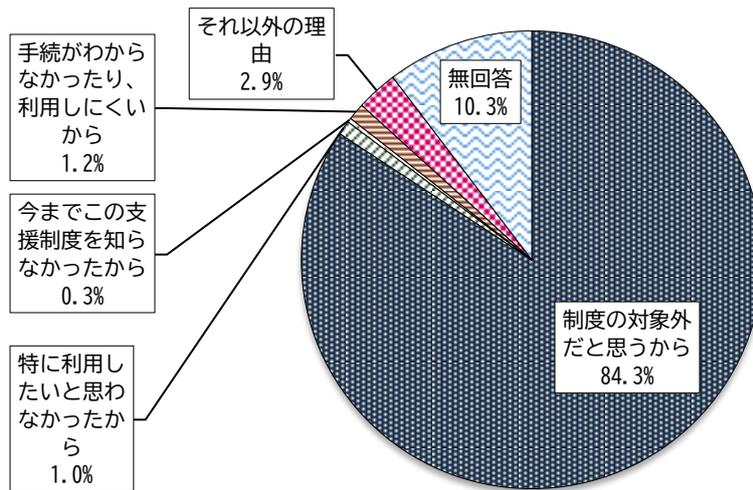
各種制度の利用状況は上図のとおりです。いずれの制度も利用者は限られており、比較的用户の多かった「児童扶養手当」や「就学援助」でも経験者を含めて1割程度です。

②各種支援制度を利用していない理由

該当設問 「利用したことがない」 場合、その理由を教えてください。(各 SA)

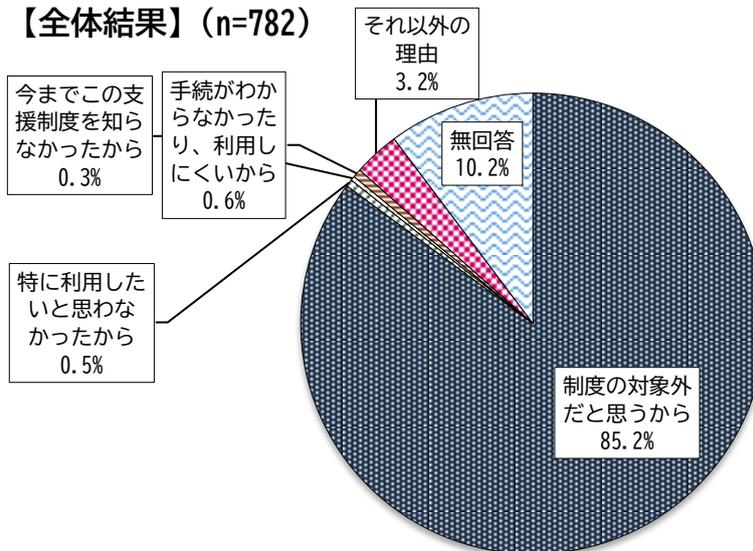
a) 就学援助を利用していない理由

【全体結果】 (n=721)

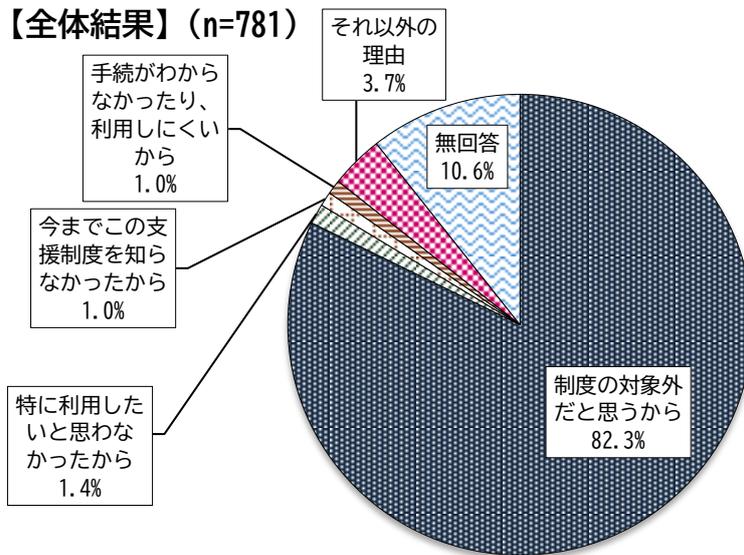


b) 生活保護を利用していない理由

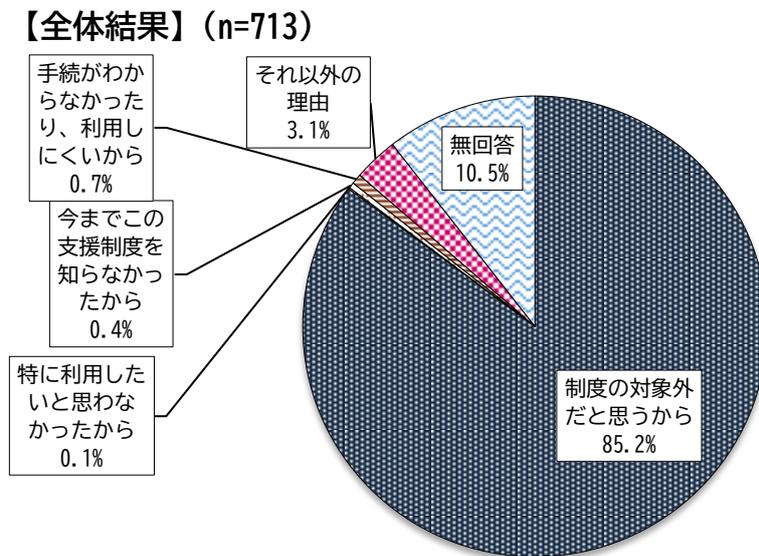
【全体結果】 (n=782)



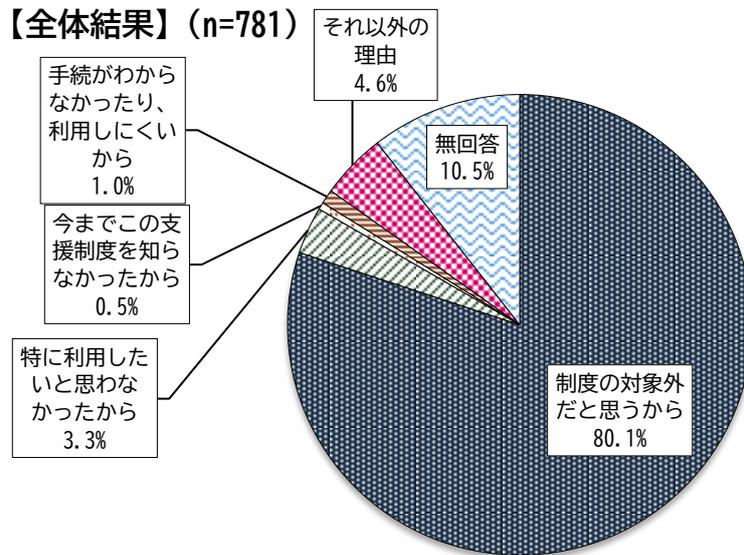
c)生活困窮者の自立支援相談窓口を利用していない理由



d)児童扶養手当を利用していない理由



e)母子家庭等就業・自立支援センターを利用していない理由



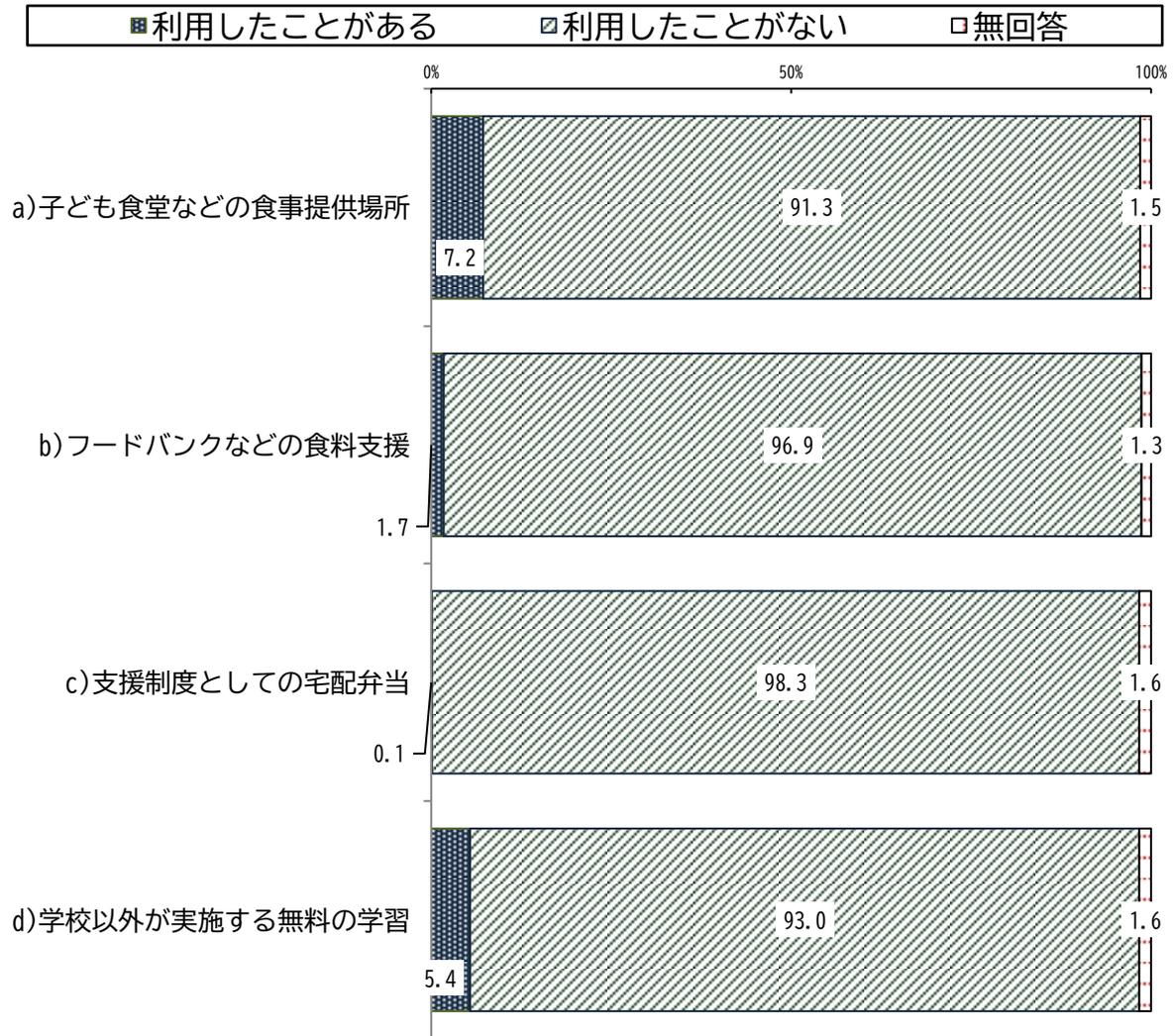
【結果のサマリー】

いずれの支援制度も「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」という理由が8割以上を占めています。

③各種施設やサービスの利用状況

問 あなたのご家庭では、以下の支援をこれまでに利用したことがありますか。(各 SA)

【全体結果】(n=817)

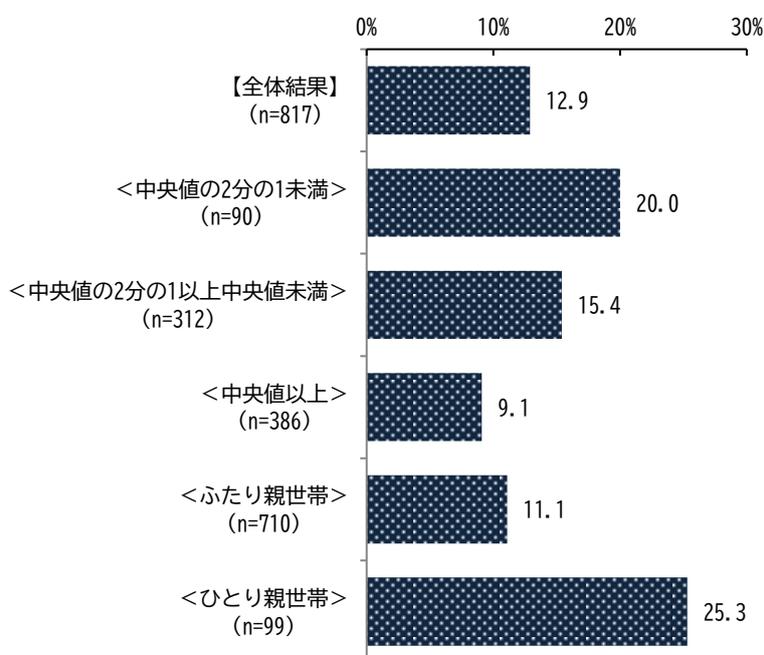


【結果のサマリー】

大多数はこれらの施設やサービスを「利用したことがない」人です。
最も利用経験者が多かったのは「子ども食堂などの食事提供場所」です。

(等価世帯収入別・世帯構成別にみた『施設やサービスを1つ以上利用している』人の割合)

『1つ以上利用している』



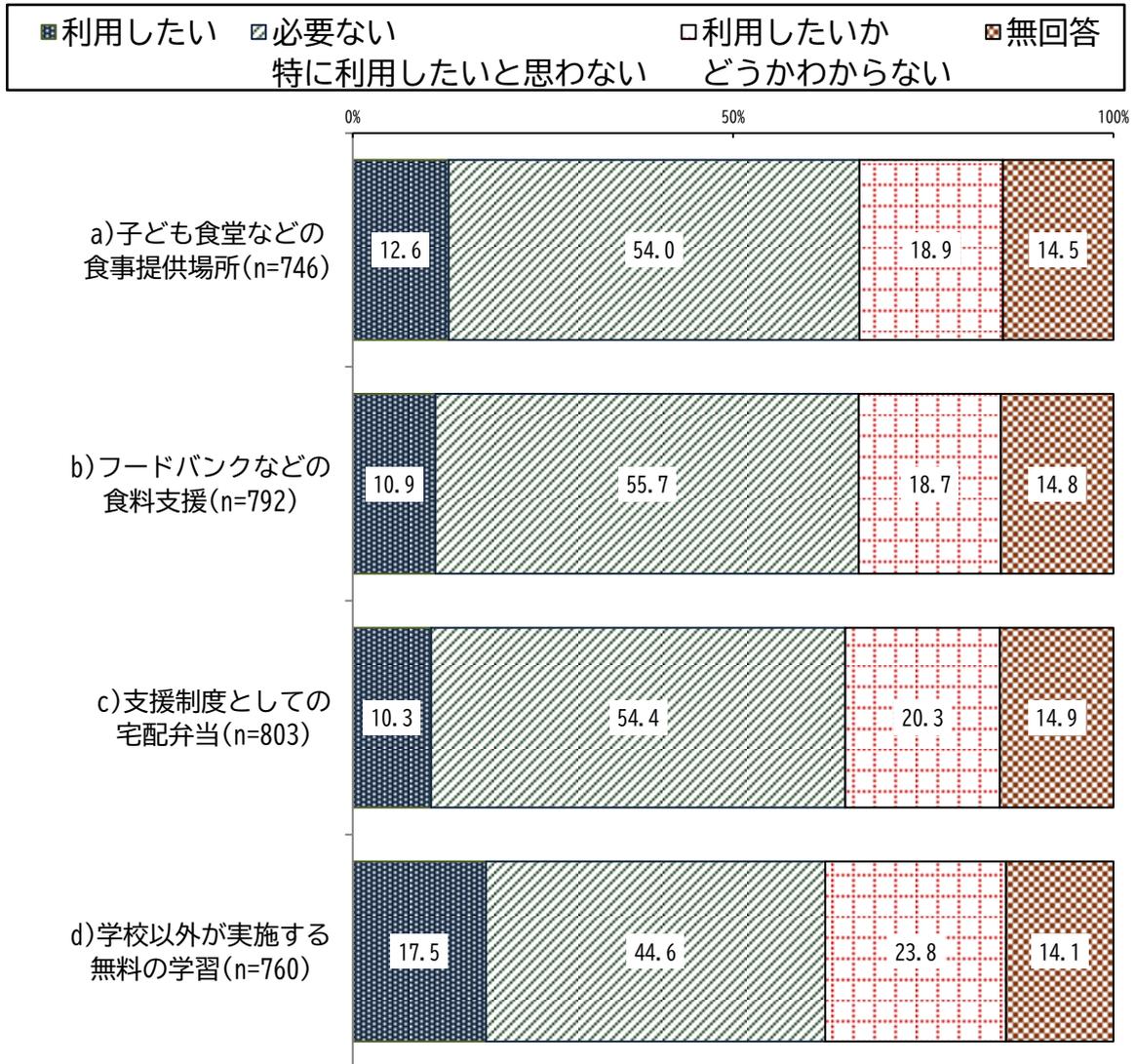
【特徴的な傾向や課題など】

上図は『施設やサービスを1つ以上利用している』人を再度集計し、まとめたものです。

<等価世帯収入が低い層>や<ひとり親世帯>では、何れかの施設やサービスの利用者の割合が2割台となっており、他の層よりも利用者は多くなっています。

④各種施設やサービスの今後の利用意向

該当設問 「利用したことがない」場合は、今後利用したいと思いますか。(各 SA)



【結果のサマリー】

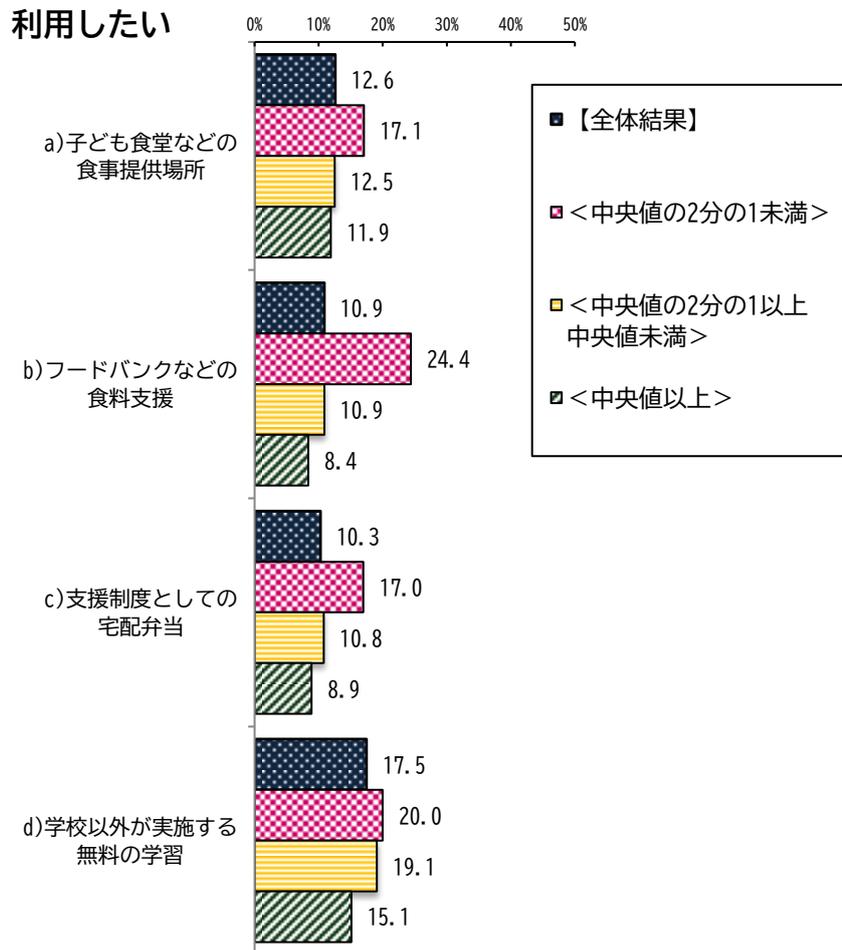
食事提供場所や食料支援よりも、学習支援に対する今後の利用意向が比較的高い傾向にあります。

【特徴的な傾向や課題など】

学習支援へのニーズが高いことから、教育支援の充実が求められている可能性があります。

全体として、食事提供や食料支援の利用意向が比較的小さいことから、これらのサービスの周知や利便性等の向上が必要かもしれません。

(等価世帯収入別に見た『利用したい』人の割合)



【結果のサマリー】

<等価世帯収入が低い層>では、全てのサービスに対する利用意向が他の層よりも高くなっています。特に「フードバンクなどの食料支援」への意向が4人に1人程度あります。

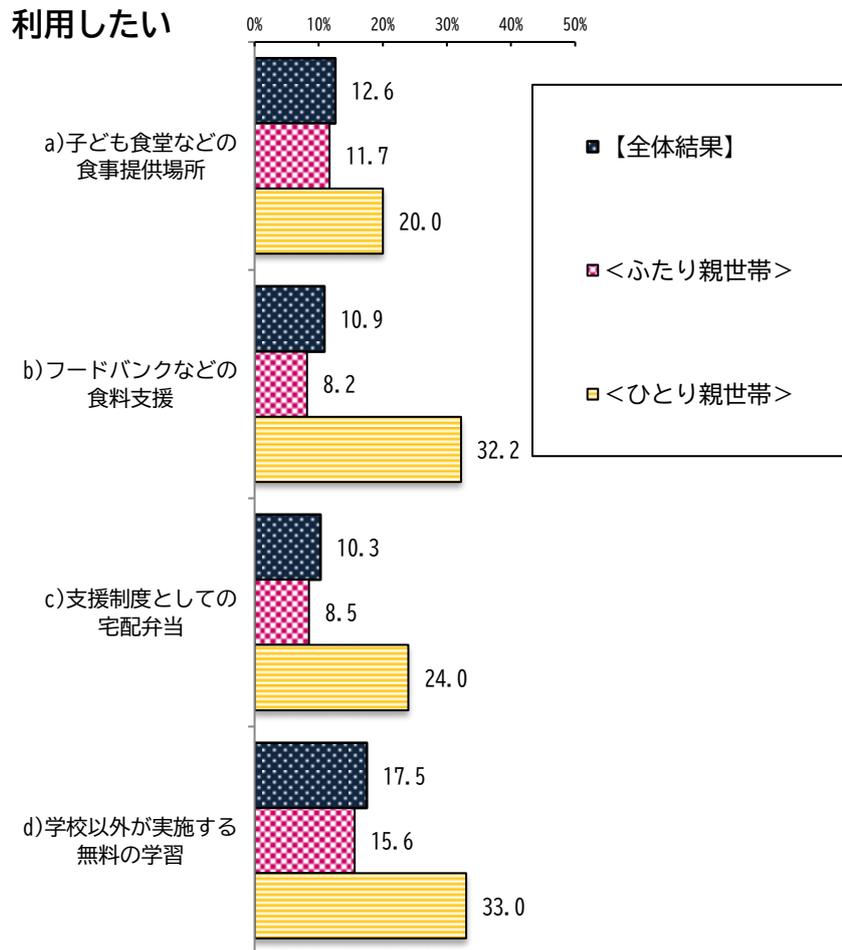
収入が増加するにつれて、全てのサービスに対する利用意向は低下しています。

【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>ほど、特に食事提供や食料支援、宅配弁当などの食料・食事の支援に関する需要が高いことが明らかになりました。

<等価世帯収入が低い層>ほど、食事提供や食料支援などの生活支援サービスに対する需要が高く、経済的な困難が直接的な生活の質に影響を与えることがわかりました。

(世帯構成別にみた『利用したい』人の割合)



【結果のサマリー】

再掲になりますが、全体では「学校以外が実施する無料の学習」に対する利用意向が最も高く、次いで「子ども食堂などの食事提供場所」、「フードバンクなどの食料支援」、「支援制度としての宅配弁当」の順ですが、世帯構成別でも、各層で「学校以外が実施する無料の学習」に対する利用意向が最も高くなっています。

<ひとり親世帯>では、全てのサービスに対する利用意向が高く、特に「フードバンクなどの食料支援」への意向が3人に1人程度あります。

【特徴的な傾向や課題など】

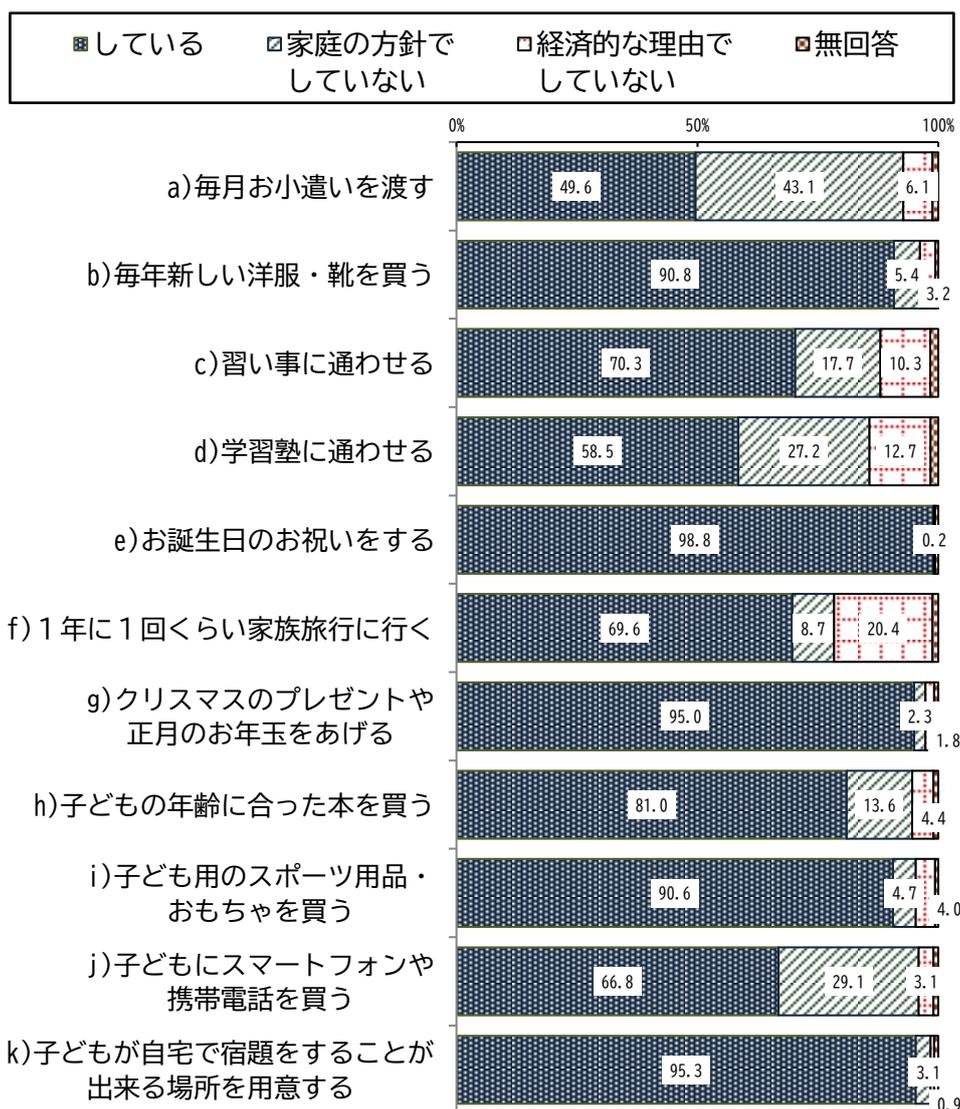
<ひとり親世帯>のすべてに対しての高い利用意向は、経済的な困難に加えて、子育ての負担が大きいことを反映している可能性があるため、<ひとり親世帯>を対象とした更なる支援策の充実が必要であると考えられます。

11. 子どもにしていることや体験等について

①子どもにしていること

問 あなたのご家庭では、お子さんに以下のことをしていますか。
「していない」場合は、「ご家庭の方針」か「経済的な理由」をお答えください。(各 SA)

【全体結果】(n=817)



【結果のサマリー】

結果を整理すると、「子どもが自宅で宿題をすることが出来る場所を用意する」、「クリスマス
のプレゼントや正月のお年玉をあげる」、「お誕生日のお祝いをする」、「子ども用のスポーツ用品・
おもちゃを買う」、「毎年新しい洋服・靴を買う」の実施率が9割を超え、多くの家庭で行われて
いることがわかります。

一方で、「学習塾に通わせる」、「習い事に通わせる」、「1年に1回くらい家族旅行に行く」は、
経済的な理由で実施していない割合が他の事項より比較的高くなっています。



【特徴的な傾向や課題など】

家族旅行(約2割)や学習塾(1割強)、習い事(約1割)など、経済的な理由で支援を行っていない割合が高い項目は、家庭の経済状況によって子どもへの支援に差が出ていることを示しています。経済的な格差が子どもの経験や学習機会に影響を与える可能性があることがわかりました。

毎月お小遣いを渡す(4割強)や学習塾に通わせる(2割台)、スマートフォンや携帯電話を購入する(約3割)など、家庭の方針によって支援を行っていない割合が高い項目は、家庭によって子どもへの教育や生活環境に対する考え方が異なることを示しています。子どもの自立や教育方針に関する家庭内の意思決定が多様であることがわかりました。

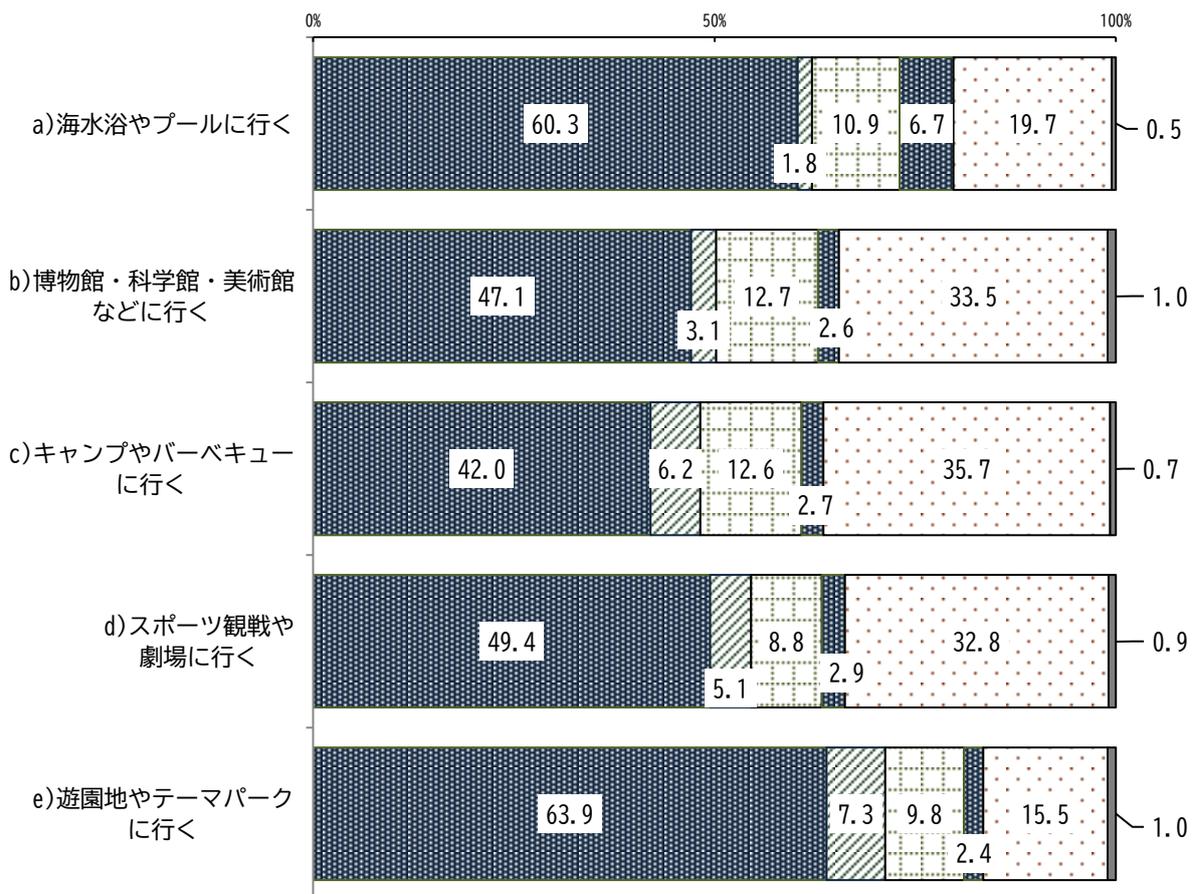
この結果から、各家庭で子どもへ行われていることには経済的な要因や家庭の方針による差異が存在し、基本的な事項は広く行われているものの、子どもの経験や学習機会に影響を与える可能性がある事項があることもわかりました。

②過去1年間の体験

問 あなたのご家庭では、過去1年間において、お子さんと一緒に以下の様な体験をしましたか。
「ない」場合は、その一番の理由としてあてはまるものをお答えください。(各 SA)

【全体結果】(n=817)

■ある □経済的理由から □時間の制約から □コロナ対策から □その他の理由から ■無回答
ない ない ない ない ない



【結果のサマリー】

結果を整理すると、「遊園地やテーマパークに行った」子どもが最も多く6割以上が体験しています。「海水浴やプールに行った」子どもも約6割と高い体験率を示しています。

一方で、「スポーツ観戦や劇場に行った」や「博物館・科学館・美術館などに行った」、「キャンプ・バーベキューに行った」子どもは、それぞれ4割台と比較的低くなっています。

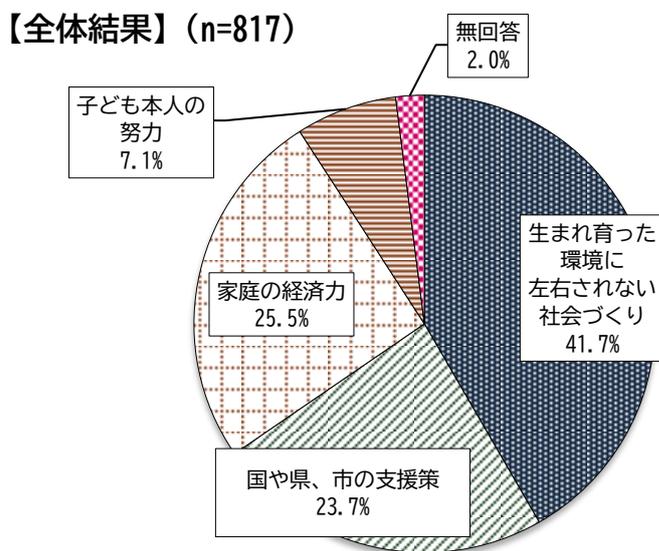
【特徴的な傾向や課題など】

最も体験率が高いのは「遊園地やテーマパーク」ですが、一方で、経済的な理由で行かなかった割合が最も高いのも「遊園地やテーマパーク」です。

経済的な理由で様々なことを体験できない子どもも一定数存在することがわかりました。特に「遊園地やテーマパーク」のようなコストがかかる活動については、体験率を上げるためにある種の経済的な支援が必要かもしれません。

12. 子どもの成長にとって最も重要なこと

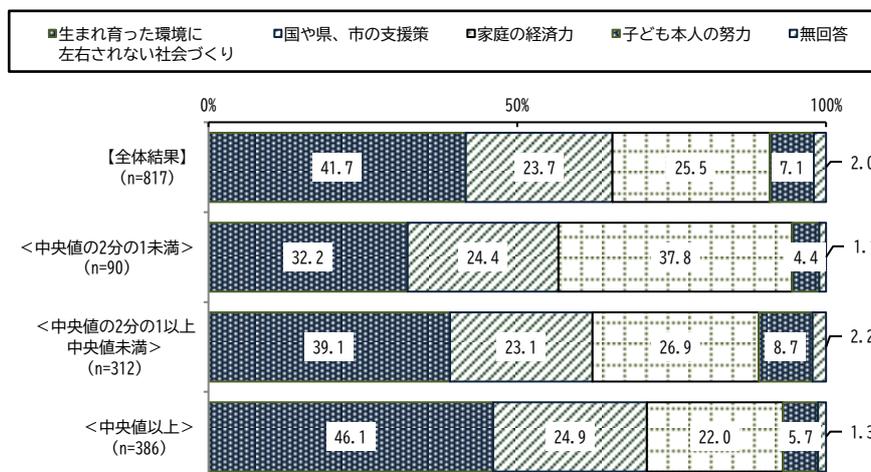
問 子どもが心身ともに健やかに成長し、教育の機会が均等に保障され、夢や希望を持って成長することができるようになるために、あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。(SA)



【結果のサマリー】

最も重要だと考えられているのは「生まれ育った環境に左右されない社会づくり」、次いで「家庭の経済力」、「国や県、市の支援策」、「子ども本人の努力」の順となっています。

(等価世帯収入別・世帯構成別にみた「最も重要視すること」)



【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>では、「家庭の経済力」を重要視する割合が全体平均よりも高く、逆に「生まれ育った環境に左右されない社会づくり」を重要視する割合が最も低くなっています。

「生まれ育った環境に左右されない社会づくり」を重要視する割合が最も高いのは<中央値以上>です。

<ふたり親世帯>では、「生まれ育った環境に左右されない社会づくり」を重要視する割合が最も高く、【全体結果】とほぼ同様の傾向を示しています。

<ひとり親世帯>では、「家庭の経済力」を重要視する割合が【全体結果】よりも高く、「生まれ育った環境に左右されない社会づくり」とほぼ同等となっています。

<等価世帯収入が低い層>ほど家庭の経済力を重要視する傾向があり、一方で収入が高い世帯では、社会全体の環境改善を重要視する傾向があります。また、<ひとり親世帯>では、家庭の経済力が特に重要視されています。